

# 商大レビュー

Shodai Review

Vol.29  
2020.3

地域と  
呼吸する  
大学

- 07 公開講演会  
学会学術公開講演会  
大災害は市役所の実力テスト  
総社市長 片岡 聡一 氏
- 15 受託研究  
岡山県・地域を学んで  
のこさずたべよう事業
- 16 フィールドスタディの取り組み  
奥出雲町農泊モニターツアー  
北房まちの駅 AZAE センター運営補助について
- 23 文部科学省 私立大学研究ブランディング事業
- 25 平成 31 年度（令和元年度）  
私立大学等改革総合支援事業

岡山商科大学

## Index

- 04 **巻頭言**  
**年頭にあって**  
岡山商科大学 学長 経営学博士 井尻 昭夫
- 05 **社是・社訓**  
岡山ガス株式会社 代表取締役会長 岡崎 彬 氏
- 06 **研究所の活動**  
社会総合研究所 所長 大崎 紘一
- 07 **公開講演会**  
学会学術公開講演会  
**大災害は市役所の実力テスト**  
総社市長 片岡 聡一 氏
- 14 **各公開講演会紹介**  
第6回「投資家と学生のための会社説明会」  
社会総合研究所 客員教授 近藤 一仁  
おかやま大学生人権啓発パートナーシップ推進事業：  
第3回つばみ講演会  
「少年犯罪で息子を奪われた母の想い  
～少年犯罪被害について考える～」  
法学部法学科 准教授 加藤 摩耶
- 15 **受託研究**  
岡山県・地域を学んでのこさずたべよう事業  
経営学部商学科 教授 三好 宏
- 16 **フィールドスタディ**  
フィールドスタディの取り組み  
奥出雲町農泊モニターツアー  
経営学部商学科 教授 三好 宏  
北房まちの駅 AZAE センター運営補助について  
産学官連携センター
- 20 **学生ボランティア活動**  
「キッズビジネスパーク 2019」における学生ボランティア活動  
社会総合研究所 次長／経営学部商学科 准教授 海宝 賢一郎

- 21 **プレゼンテーション大会**  
第8回 経済学部ゼミ対抗  
プレゼンテーション大会について  
経済学部経済学科 准教授 山下 賢二
- 22 **2019年度 連携協定**  
玉野市  
岡山県立和気閑谷高等学校  
マレーシア ペナン州柔道覚書調印に  
ついて  
柔道部顧問 大谷 崇正
- 23 **私立大学研究ブランディング事業**  
文部科学省  
私立大学研究ブランディング事業  
副学長 大崎 紘一
- 24 **科学研究費助成事業**  
科学研究費助成事業への取り組み
- 25 **文部科学省補助金**  
平成31年度(令和元年度)  
私立大学等改革総合支援事業
- 26 **大学コンソーシアム岡山**  
日ようび子ども大学・FPコース・キッ  
ズマネー教室 開催  
エコナイト
- 27 **キャリアセンター**  
2020年度の採用動向を予測
- 28 **高大連携**  
『恕』の精神を持った探究人育成  
を目指して  
岡山県立和気閑谷高等学校 校長 香山 真一  
教諭 安東 真美
- 30 **教員免許状更新講習**  
教員免許状更新講習について  
教職課程を履修して
- 31 **海外との交流**  
忠清大学校留学  
マルタ共和国語学研修
- 32 **慶応 MCC タ学講座**  
『夕学(せきがく)五十講』(東京・丸の内で開催)  
をインターネットで全国へ中継配信
- 34 **商大講座**  
2019年度「商大講座」  
実績・メニュー 一覧
- 36 **学術トピックス**  
著書紹介  
『OECD モデル租税条約 2017年版』  
法学部法学科 准教授 坂巻 綾望  
『証券投資の基礎知識』  
経営学部商学科 教授 鳴滝 善計  
『TQMの基本と進め方 持続的成長  
のために』  
経営学部経営学科 教授 西 敏明  
本学と二松學舎大学との共同研究 出版物  
『ショッピングモールと地域』  
『フードビジネスと地域』  
『地域と大学』
- 38 **岡山経営者論**  
(一社)岡山経済同友会とタイアップした  
「経営人材育成プログラム」
- 39 **観光振興論特殊講義**  
観光振興論特殊講義  
経営学部商学科 教授 三好 宏
- 40 **孔子学院**  
2019年度孔子学院活動報告
- 42 **商大塾**  
2019年度の商大塾を振り返り
- 43 **資格試験講座**  
資格合格者一覧、合格者の声
- 45 **研究所から**  
後援会及び後援会役員会について  
所長挨拶
- 47 **創設以降の活動経緯**
- 49 **編集後記**

## 年頭にあたって

オリンピックは2021年に延期となりましたが、この祭典では多くの外国人が日本に集まり、直接的な影響ばかりではなく新聞やテレビ等といった間接的な情報を通じて、「国際化」の意味合いは一段と意味深いものとなりましょう。しかも、否応なく知らず知らずのうちに国際化が浸透する状況にあるだけに、この機会に「国際化」を真剣に受け止めたいものです。

ところで、今日の社会の様相として、我が国は少子高齢化社会が進行し、様々な社会問題を呈してきていることは紛れもない事実ですが、社会一般では徐々にその影響が出ているのではないのでしょうか。

我が国のGDPは世界3位であることは誰もが知っているところですが、日本が世界第2位から3位になったのは最近のことであり、急速に経済発展を遂げてきた隣国中国に追い越されました。GDPが世界3位であるからいいではないかという意見もありましょうが、人口一人当たりのGDPを考えると、心穏やかではありません。

実は、我が国の国民一人当たりのGDPを見ると、ドイツ、イギリス、フランスよりも低く、日本は世界20位以下です。この面で上位を占めるのはルクセンブルグ、ノルウェー、カタール、スイス、オーストラリアと続き、アメリカが10位、ドイツ18位、イギリス19位、フランス20位と続いています。このことを考えれば決して豊かな国とは言えないのではないのでしょうか。

しかも、GDPがこれまで伸びてきたのは人口が右肩上がりであったことで成長が達成されてきたのですが、少子高齢化社会の到来となれば話は異なります。若年労働者及び労働人口が減少する中で、高齢社会を支えなければならない社会では、GDPは伸びないばかりか社会保障費

岡山商科大学 学長  
経営学博士

井尻 昭夫



等が増加することになり、社会は沈滞化を余儀なくされます。もっとも単純作業はロボットで代替されますが、人間社会でのロボットの役割には限界があり、安泰であるとはいえません。しかも、日本経済の駆動力として大きな役割を果たしてきた団塊の世代が第一線を退いているだけに、事態は深刻です。

内閣府は、時の経過とともに、狩猟社会—農耕社会—工業社会—情報社会を経て、これからの社会をSociety 5.0としてその青写真を示しました。そこでは、経済発展と社会的課題の解決を両立させ、必要な物を、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供できるように、また、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させることによってイノベーションをもたらし、各方面に新たな価値を創造する社会の構築が示されています。そこでは、ありとあらゆるデータが解析され、AI（人工知能）がその立役者になる社会が想定されています。

我々の社会において内閣府の示す「Society5.0」が具現することを願ってやみませんが、所詮その社会は人間のための社会に他なりません。それは永久にバランスの取れた社会であることが望まれます。このためには少子化社会から脱皮し、長期にわたって均衡のとれた社会、すなわち、若い世代が増加する社会にしなければ根本的な問題の解決とはならない、という大きな課題をかかえています。情報化社会、グローバル化の大きな流れの中で、真剣にこの問題に取り組まなければなりません。

来年開催されるオリンピックという地球国家の祭典が成功することを願うとともに、この機会にグローバル化の視点に立って日本が今後長期にわたってバランスの取れた社会へと発展していく方策を探したいものです。

## 社是・社訓

岡山ガス株式会社  
代表取締役会長

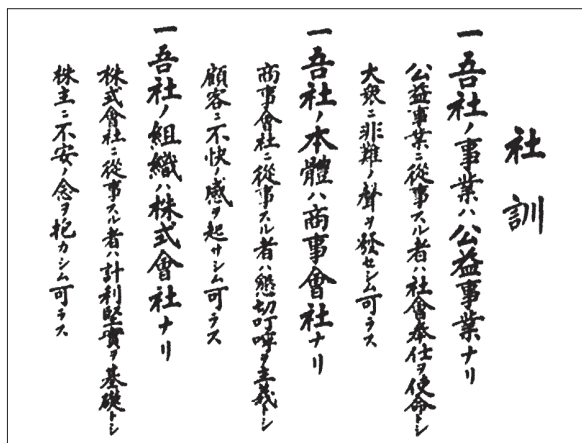
岡崎 彬氏



貴方の座右の銘はと聞くと、大方の人は答えてくれます。しかし家訓はというと無いか知らないという人が圧倒的に多いのではないかと思います。これも、家族制度から個人が大事にされる時代への変化に伴うものでしょう。

一方、社会の変化が速く大きくなってきているからか、企業の社是や社訓・ビジョンなどが重視されるようになってきたように感じます。

弊社の社訓は明治43年の設立時に制定されています。一寸読みにくいと思いますが当時の雰囲気を感じとっていただくため原文のまま紹介いたします。



社訓はありましたが社是はありませんでした。これは、安定供給と保安の確保並びに都市ガスの普及拡大というガス事業の使命というものがはっきりしていたからではないかと思っています。しかしながら社外に向けての社是と社内へ向けての社訓は対をなすものではないかと思い、昭和57年に社是を制定することにしました。制定は当時社長であった私に一任されたので、私の一存で決めたものです。

前述したようにガス会社の使命ははっきりしているので、「信頼と情熱」を社是としました。会社の仕事は一人ではなく組織でやるもので、互いの信頼関係があって出来るものです。信頼が無くなると組織も崩壊します。

地域からの信頼、株主からの信頼、協力会社

や従業員との信頼そして事業への情熱ある取り組みを通じてガス事業の使命を達成していこうと考え、制定したものです。

爾来、この社是・社訓を変えることなくやってきました。

ところで、都市ガス事業は電力などと同じく公益事業としてこれまで規制と保護が加えられてきました。

事業の認可は勿論のこと供給区域やガス料金を設定・変更するにもそのつど監督官庁の許可を必要とし、兼業も本体事業への影響を排除するため禁じられておりました。こういった規制を課す代わりに地域独占が認められてきました。

しかしながら、海外と比べて電気やガスの料金が高いことから、競争を持ち込むことによって料金の値下げやサービスの向上を図るという目的で、平成28年4月の電気の小売り自由化に続いてガスも平成29年4月より小売りが全面自由化となりました。ガス事業始まって以来の大改革です。

今までのところ中国・四国地方では未だガス事業への新規参入は見られませんが、市場規模の大きな東京、大阪、名古屋などの大都市圏では熾烈な顧客獲得競争がおこっており、今年1月末までの2年10か月で321万件が切替わっています。中国・四国地方における都市ガスの全顧客件数が100万件程度であることを考えれば、私共にとって大きな脅威です。

この事業環境の変化に対して弊社としても、社是・社訓を含む事業全体を見直して岡山ガスグループのビジョンを策定し、企業の存続と新たな発展を目指しているところです。ビジョンは当社のホームページに掲載してありますので興味のある方は御覧頂ければ光栄です。

今年の西大寺会陽では、ともに創立110周年を迎えた両備グループと弊社で祝い主を務めさせて頂きました。これまで弊社をご愛顧いただいた皆様に会陽で頂いた「福」を少しでもお分け出来たらと思っています。

## 研究所の活動

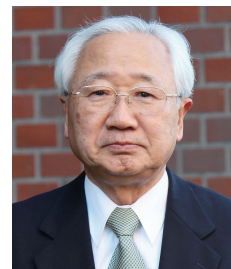
2019年度は、5月から令和元年となり、31年間の平成が終わり、昭和47年に設立された社会総合研究所は、昭和16年間、平成31年間の合計47年になり、50周年が近くなりました。設置の当初から後援会役員会の代表幹事の重責をお務めいただきました、(株)廣榮堂取締役会長武田修一様が、2019年にご逝去されたことを悼み、長年のご尽力に感謝申し上げるとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

最近の研究所の成果として、客員教授である近藤一仁先生、青山敦子先生にご協力をいただいている活動があります。近藤先生には、ご専門のIRに関する講演会「投資家と学生のための会社説明会」を、IRを積極的に実施しておられる企業の経営者をお招きして、最先端のお話を聞ける講演会として開催していただき、5年間継続しております。本学の学生にとっても有益であり、最近では県内の企業の方々の参加も増えている状況です。青山先生には、ご専門のダンスで中高年齢者の方々の健康な心と体づくりをめざして「リフレッシュダンス教室」を2018年度から開講していただいています。本年度は、参加者が多くなり、成果発表会も盛会裏に終わることができました。さらに、1月から3月は寒いので講座を開講していませんでしたが、参加者のご要望で、年間開講できる状況になってきました。本学非常勤講師小野陽美先生のご協力もいただき社会人教育プログラムとして継続的に実施されるように支援をしていきます。

本学の教員は、全員研究所の研究員となっていていただいていますので、特に研究については、個人的面が強く、科学研究費へ代表者として、

社会総合研究所 所長

大崎 紘一



あるいは研究分担者として申請、採択をされることを推進しています。また、大学における研究によるブランドの構築については、2017年度に採択され2019年度が最終年になる「『寄り添い型』研究による地域価値の向上」へ取り組んでいただいている16研究グループの先生方のご尽力により、12研究グループの研究内容については、二松学舎大学と共同で出版をしている2冊の著書に収録できています。また、本学の論叢への論文投稿件数も増加し、大学として地域の課題を『寄り添い型』で研究する体制の構築が確立しつつあります。

学生の資格取得を支援する商大塾には、事務職員を配置していただきましたので、留学生の日本語能力試験の申し込み、試験、成績に関する事務作業を移管し、2019年度12月1日試験から対応を始めました。また、TOEICの受験についても2020年4月から商大塾で申し込み手続きができるように準備を進めています。

学外の方々の認知度が高くなりました「夕学講座」は、2003（平成15）年に開始し16年になり、安定した受講者の参加をいただいています。最近、本学学生の受講生も多くなり、学生会館2階地域交流談話室は一般の受講者、1階の食堂は学生の受講者と分けて受講してもらっています。

教員の皆様の研究支援、学生の資格取得支援、一般の方に向けた講座を更に進めていくことが研究所の役割でありますので、今後とも教職員のご協力を得て、この役割を果たすよう努力してまいりますので、ご協力を宜しく願います。

## 学会学術公開講演会

## 大災害は市役所の実力テスト

## 講師プロフィール

総社市長 かたおか そういち 片岡 聡一 氏

昭和 34 年生まれ。

内閣総理大臣公設第一秘書、

行政改革・沖縄北方担当大臣大臣秘書官等を経て、

現在、総社市長。

マラソンとピアノと料理づくりが好き。



はい、皆さん、こんにちは。総社市長の片岡聡一と申します。今日は、どうぞ、皆さん、よろしく願いをいたします。

ところで、岡山県外から来てる人は、どれぐらいいらっしゃるでしょうか。

じゃあ、みんな、県内ですか。だったら、土地勘も皆さんわかりますね。去年(平成 30 年)7 月 6 日、7 日、8 日、あのときどうだったのか、総社市でも 10 人の命が失われていきました。そのとき、市長は災害対策本部長となって、采配を振るわけでありませけれども、僕がどう思って、何をやってたのかということ皆さんに伝えていきたいと思えます。皆さんも、やがては社会に出て行って、人々のリーダーになっていきます。そのときに、危機管理であるとか、人の命を救うこと、そして、いざとなったときに何をやっていくか、これを何となく覚えていただいたら、とてもありがたいと思えます。

去年の 7 月 6 日、前の日(5 日)から、どしゃ降りの雨が続いていました。みんなも覚えているかもしれません。僕は割と直感型の人間で、みんなもあるでしょう、何となく悪い予感がするとか、何となく、やられそうとか、何となく、この試験は無理そうとかあるでしょう。僕もね、その 7 月 6 日の朝、もう真っ暗だったんです。朝の 8 時、9 時なのに、本当に厚い黒い雲で、目の前がどしゃ降りの雨みたいで、そういう感じでありました。直感的に、前の日から 100 mm を超えて降ってましたし、これはやられるぞ、これ、やばいわと思いました。

その日は、ちょうど市議会の開会日で、10 時から今日は議会だという日だったんですが、これ、だめだ

と、こんなことをしとる場合じゃない、すくっと立って、議長室のほうへ行って、「議長、今日、議をやめませんか。議会やってる場合じゃなくて、これ、災害対策本部をすぐさま設置しないとアウトになりますから、議をやめましょう」と言ったら、いつも議会はなかなか賛同を得るのは難しいんですけども、「わかった」と、「議会、今日は中止だ」となり、午前 9 時に災害対策本部を設置しました。

そこから、のるか反るかの、生きるか死ぬかというのを誰が予測したかなんですが、災害対策本部長は、みんなが将来市長になったら分かりますが、市長は必ず災害対策本部長として陣頭指揮をとることになります。我が総社市も、市役所の 2 階の部屋に災害対策本部を設置して、私が陣頭指揮をとる、本部長です。そして、人口 7 万人の命を守るとことをやります。メンバーは、各部長、幹部が全体の災害対策本部のメンバーになります。

皆さん、高梁川を知っていますか。高梁川は、新見から流れてきて瀬戸内海へ行くまで、100km の長さの川です。総社を流れているときは、最大幅が 800 m あるんです。これは、全国に 130 本の一級河川というのがあるんですけども、信濃川とか淀川とか、いろいろありますけど、高梁川っていうのは長くて広くて、相当な規模の川なんです。旭川、吉井川、高梁川を 3 大川といいますが、結構、この高梁川というのは、やばい川です。

みんな、この岡山県に住んでいて、この商大の付近に住んでいて、みんな気が緩んでるでしょう、多分。去年、あんなったから、ひよっとしたらひよっとするかもということはあるかもしれませんが、大体、台風

というのはグアム島で起こるんですね、あるいはハワイの沖合みたいなところで、日本の真下、赤道直下みたいなところで熱帯低気圧が台風になって、気圧がどんどん下がって、でっかい台風だと930(hPa)みたいな感じで、上に上に上がってきます。

上に上に上がってきたときに、NHKや気象台が、今回の台風15号は930hPa、大変な強い勢力を保って西日本を直撃するでしょうとニュースで聞いたとしても、いやいや、いやいや、四国山脈という高いのがあって、これでブロックされて、岡山県直撃コースって来ても、大抵の場合は四国山脈にぶち当たって、和歌山県の紀伊半島に上陸、その後、関東に接近とか。あるいは、南シナ海、いわゆる九州の左サイドをずっと北上して行って、中国山脈の日本海をずっと右上がりに行って、福井県のほうに抜けていく。あるいは、北朝鮮、朝鮮半島をぶち抜いていく。大抵、台風のコースというのは、紀伊半島に抜けていく、あるいは日本海に抜けていく、あるいは朝鮮半島に上陸するという3通りがありますが、岡山県人は、誰も岡山県に来るとは思ってもない。

僕も、思っていました。まあ、これは大丈夫だろうみたいな、そういうふうには思っていました。ただ、去年の7月6日、7日、8日の雨は、九州から上ってきて、門司港から、いわゆる山陽新幹線の真上をずっと大阪駅に上っていく、山陽道、もう、僕らの県を直撃してくるといふ。しかも、時間雨量60mm、70mm、80mm、100mm、200mm、300mm、100年に一度と言われた雨が2日連続で来たというやつです。100年に一度が2日連続来たのです。これ、本当に僕らはアウトだと思っていました。

高梁川は、100kmの延長があると言いましたが、土手の高さが12m97cm仕様になっています。これは、総社市を通るときの高さが12m97cmです。これが12m97cmを超えたら、あふれ出て、あふれ出たところから決壊するということでもありますから、この12m97cmまで行く、これをずっと見とけよという話になります。

皆さん、今の晴れた日の普通の状態の高梁川の水位というのは、大体3mから4mぐらいのことです。これ、見た感じ、歩いて渡れそうなところもあるし、高梁川は大したことないと感じます。だけど、その日は午前9時、既に6m、昼過ぎに8m、夕方に10mを超えて、午後9時、12m超えになりました。午後9時に12m。だから、高梁川が決壊して、オーバーフローするまで、あと97cm、これが午後9時です。僕は、この高梁川は切れる(決壊する)と思いました。やられると。高梁川が切れたときに、500人は死ぬよ、600人持っていかれるか、何人持っていかれるかわからないけれども、必ず死者が出る、やられると思いました。そのため、午後9時に避難指示を出しました。

避難指示は、皆さん、よく覚えといてください、「勧告」と「指示」がある。「指示」というのが、世の中で一番強い、市役所が発する命令なんです。例えば、避難指示が発令されたが、指示に従わずに逃げなかった。逃げなかったところへ、水がどぼっと来て、流されて死んだ。これはおかしいと裁判を起こされても、市役所のほうが勝つという、一番強い指示が避難指示といえます。

午後9時に、私は何のよどみもなく、避難指示を出しました。500人、600人、高梁川が決壊すれば流されるかもしれない。そのときに、私が何を心の中に誓ったかということ、「よっしゃ、わかった」と、高梁川切れる、切れたときに、何人死者を少なくできるか。これ、放っておけば、500人、600人だ。だけど、避難所へ逃がそう。人々を避難所に誘導する。一人でも多くの人間を避難所に誘導する。これに全精力をかけようと思いました。44カ所、避難所をつくりました。

そこで、私が出した号令は、「みんな、よく聞いてくれ。総社の7万人の中で高梁川の東サイド、ここに大体、市役所周辺に5万人住んでる、ここに川が決壊して、どぼっと水が来たときに、これはもうアウトになる。だから、川より東のエリアの町内会長、地区の長、これを午後9時にこの災害対策本部に全員招集してくれ、全員集めてくれ」と言いました。そしたら、うちの市役所の職員、何と言ったと思いますか。「市長、それはやめたほうがいい。それやって、この真っ暗闇の中で、来る途中で流されたら、市長、辞任ですよ、責任問題です。それでいいんですか」と言うから、「それでいいんだ。そのときは責任持つ。だけど、みんな、よく聞いてくれ、この高梁川が決壊して、ここに水位10mみたいなんがどぼっと流れてきたときに、何人死ぬんだ。それで責任が持てるのか。だから、町内会長全員集めて、全ての地域に向けて、一軒一軒ドアをノックして、年寄り担いで逃げてくれ、障害者を担いで逃げるんだ。それをやらないと、人が救えないじゃないか」、そう言いました。

「わかりました、招集しましょう」。即座に集めました。即座に集まってくれました。40数人の町内会長が集まって、その町内会長に向かって、私は、「皆さん、よく聞いてほしい。高梁川の土手の一番高い限界水位は12m97cmです。今、もう既に12mを超えますから、我々に残された時間は1時間ちょっと、もう1時間したら、高梁川が高い確率で決壊しますから、皆さんの町内を一軒一軒回って、44の避難所を用意してますから、年寄り担いで逃げてください、障害者を連れて逃げてください」、そう言いました。みんな、顔色が変わります。「本当ですか」、「本当だ」と。「すぐ行ってくれ」。

しかし、皆さんね、これ、『実力テスト』と書いてますが、世の中、いろいろですよ、いろんな人がいる。



3分の2の人は、「よっしゃ、わかった」って言って、すっ飛んでいきます。ただ、3分の1の人は、「そりゃ、そうは言うても、こりゃあ、高梁川が切れるようなことにはならんじゃねえか」と言う。あるいは、「そうは言うても、総社は今、人口がどんどん増えとって、よそから来た新しい人がいっぱい住んどるのに、一軒一軒回っても、人間関係がねえのに、わからんわ。それから、アパートに住んどる人は、誰がどこにおるかも、さっぱりわからんし」と言う。障害者が誰かもわからん、そう言いますわね。

『実力テスト』といいますが、本当にのるか反るか、生きるか死ぬか、今だというときに、人間、どれだけできるかが、その持つて人間のパワーだと思えます。40人の町内会長、どうだこうだ言いながら、みんな飛び散っていきました。それで、漆黒の闇の中を、どしゃ降りの中を、一軒一軒行ったわけです。「逃げてくれ、逃げてくれ、お年寄り担いでいきますから」と言って、全世帯、行った。

それ以外にも、水位がどんどんどんどん、どんどんどんどん、上がってきて、12m50、12m60、70、午後10時越えて、もうぎりぎりだった。さらに「避難させろ、避難させろ」と言って、僕らがやったことが、この、みんなも持つてスマホ、そのスマホのアプリから、もう徹底的に、あいうえお、かきくけ、電話の全部に、「もう高梁川が切れるから、すぐ逃げてくれ、すぐ、今すぐ逃げてくれ」という呼びかけを徹底的にやりました。

市議員さん、さしすせその総社のところに、総社市議員何それっていうのが、ずっと電話番号があって、その総社の市議員さん、全部電話した。これが、また意外でね。普段は議場でごたごた、ぐだぐだ言う議員さんに、「済みませんけれども、今すぐ、あなたの後援会に全部電話して、逃げるように言ってください」と言ったら、「よっしゃ、わかった」と言う議員さん、いっぱいいた。だから、本当にその時々で、今だというときに動く人、これが真の実力者だと思えます。

この、問題は、よく僕が炎上するTwitter（ツイッター）、Twitterで打ちまくりました。あと一時間、もう30cm、逃げて、逃げて、すぐ逃げてと打ちまくりました。それをやってる間に、皆さん、情報が錯綜するとよく言います、高梁川、あちこちで溢れ始めます。どんどん水が出てきます。そんな中、皆さんが災害対策本部でリーダーをやる、想像してみてください。情報をどうやって集約しますか。本部員は20人ぐらい、どうやって、今、高梁川で何がどう起きて、何人どうなってんだということ。これは非常に厳しい賭けみたいな感じはあるんですけども、私は災害情報を1人から聞くことにしました。要するに、私が選んだのは、総社市消防長、消防の責任者を左に置いて、その消防長の情報だけを聞くということに決めま

した。いわゆる他の情報を捨てるということです。

これは、結構厳しい、危険な賭けかもしれません。賛否両論あると思います。ただ、情報は錯綜するものです。「市長、あそこの土手が決壊して、水が民家へどぼっと流れていって、人が流されてます」と言う人がいる。もう一方の地元情報は、「いやいや、ちょっと越えているぐらいで、まだ決壊はしていないよ」と言う。あるところは、あそこで5人が孤立している。ある人は、いやいや、15人いる。5人なのか15人なのか、わからない。そうすると、判断を迷うから、判断は1人の情報伝達者に委ねる。いわゆる消防長と心中するという事です。この選択は、いきなり、ぱつと、のるか反るかとなった瞬間に、瞬間的に決めました。それは、複数の情報が全く違うということで右往左往する現場を見て、これは1人の情報伝達者に委ねるしかないということを決めたわけです。



もう一つは、これはみんなもやってますが、Twitterの情報です。このTwitterを見ていると、結構な情報がいっぱい転がっています。これを見ると、非常に危険です。うそがいっぱい入ってます。うそがいっぱい入ってるけれども、本当の情報もいっぱい入っています。総社は10人の尊い命が失われましたが、同じ時間に1kmちょっと行った真備町で結果的に51名の方が犠牲になるのですが、その時点でもう既に真備町川辺の川付近で隣のおばあちゃんが流されていったとか、そういう情報が結構流れています。これは役所よりも、ある意味、Twitterの情報のほうが早いという部分もあったと思います。

その消防長から情報を得ながら、「市長、国道180号線が高梁川と一緒に北上していますが、国道工事事務所の指令で180号線をとめに行った警備員さん、この警備員が、高梁川がぶわっと水が上がったんで、9人、孤立しています」という情報。そのうち、その9人は大濁流の高梁川の中に放り込まれたという情報。それから、反対側の川岸に、川の水位を見に行ったおじいさんが流されて、遺体で上がった。皆さん、あんな激しい雨の日に、川の水位を見に行く人、いっぱいいるんです。珍しいからというのもあるし、魚とりに行く人もいますよ。水位が上がると、アユと

か何だかんだが川岸に、岸のほうに集まってきて、魚も苦しくなるんですね、それをすくいに行く、それをすくいに行って、死んだっていう人、結構いるんです。あっちに3人、この川岸に4人、どんどん高梁川に流される。

それで、消防長が、「作原という地域に、もう高梁川がオーバーフローして、どばっと流れ込んだ、流れ込んで、あれよあれよという間に2階の窓や天井まで水位が上がって、もう逃げる場所がなくなって、2階の屋根の上で、そこら中で助けを求めている。市長、消防隊のボート隊を直ちに、直ちにそこに行かせます」と言うから、「よっしゃ、わかった、行け」というふうに指示します。これは、市長が指示して、全ての派遣隊員は行くわけです、すぐ行けと。そしたら、30分、40分後、消防長が、「市長、済みません、3人行かせた消防部隊、ボート隊が3人とも、高梁川の濁流の中にもろとも飲み込まれて、放り込まれて、行方不明になりました」、そういう情報が入ってきました。

これはね、非常につらい。いわゆる自分の判断で市役所の職員を殺したわけです。これは責任問題ということになるから、これ、非常に重い。重いけれども、これはもう明日の朝、夜が明けたら、記者会見か何かでもして、責任問題、私の判断ミスで殺しましたということを上げなければいけない。だけど、皆さん、この有事の対応をやるときに、これも『実力テスト』だと言い続けてますが、死んだ人間のことを思ったら、だめです。悲しいけれども、死者を思っていたら、助けられない。それ以上に死者を出さないという判断をしていくということが大切です。これは非常につらいのですが。

消防長は、この3人流されたと言った時点で、なえた。どうしても、なえる、顔が暗くなる、覇気がなくなる。当たり前のことです。ただ、私はその覇気がなくなった消防長の情報をとり続ける。それが役割です。覇気がなくなった時点で、覇気のない中で、消防長の顔色をとりながら、判断をし続けるということが大事です。

だけど、消防隊だけでなく色々情報を整理したら、その暗闇の高梁川に20人が飲み込まれてしまっている、20人、死ぬということです。それじゃあ、だめだと。何か救う手だてがあるはずだ。だから、あの濁流の高梁川の真っ暗闇の中に行って、20人救おうと。瀬戸内海へ流れるまでに、総社市内に、あるいは倉敷に、橋桁の低い橋が何本かある。そこに消防隊を集結させて、橋の上に消防士をだっと並べて、普段は火事を消す消防ホースを川面に、流れに、3m間隔で四、五十本、ずらっと垂らして、上から流れてくるであろう遭難者をピックアップしよう。そういう作戦をとりました。

ずっとサーチライトを照らして、消防隊員並べて、消防ホースを垂らして、橋で待ってる。待てど暮らせ

ど、来ない。そうしたら、とうとう来た、1人来た。「つかまれ！」と言ったら、ちょっとした波の強弱で、ぶわっと流されていって、つかみ損ねて、失敗した。また流された。そうこうしていたら、2人来た。その2人は、3人流された、死んだと思った消防士の2人だった。「つかまれ！つかまれ！」と言ったら、つかまった、その2人。けれど、その2人は、2人とも1本の同じホースを握って、つかまっていた。そして、その2人は、どうしたかという、お互いに譲って、両方とも放して、また流されていった。その後、遭難者が来てても来てても、なかなか波で拾えない。結局、その作戦で2人助けられた。あとの18人は流されたということです。

翌朝になって、「市長、あそこの左側の竹やぶの中で2人亡くなっています」、「あっちで何人亡くなっています」、そういう情報をずっと聞いておりました。そういう中で、流された消防士3名のうち2名が生還しました。そりゃもう、うれしかった。本当にうれしかった。災害本部に戻ってきて、「怖かったか、帰ってきてくれてありがとう」と、まず、そう言いました。そしたら、「怖かったです、人間、死ぬとき、こうやって死ぬのかと思いました」、そう言った。

いつもは助ける側の人間が、流されてしまって、生きて帰ってくる。どう怖かったか聞いたら、「濁流の中でずっと流されていく。けれど、消防学校で流される訓練をしていました。それは、服を全部脱いで、足を川下に向けて、全身脱力で流れに身を任せるといって、それだけの訓練です」。それをやったんかと聞いた。「そうやりました。ただ、なかなか服が脱げませんから、脱ぐには至らなかったけれども、上着は取って、放り投げて、足を下に向けた。そうしたら、大きな巨木と柱が裂けたようなちっちゃい木が、鈍い音で、ゴーン、ゴーンとぶつかり合ってる。でも、川の流れは見た目よりも物すごく速くて、その流される横を、木がぶつかり合いながら流れていく。その木と木の間に挟まったら、これは死んでしまう。だけど、その木をよけるということができないぐらい、川の流れは穏やかに見えてきつい」と言う。

それから、軽い堰がある、十二箇郷という堰がある。これは、堰の高さが3m50cmぐらいなものです。そこを、水深13mになってるわけですから、堰なんていうのがあったかなかったかわからないぐらいで、ひゅっとした川の下りになってる。そこを通過したときに、そのしゅっとした波の下りが、要するに堰の上の部分で、そのひゅっとした段差のところから、ぐっと13m下の川底にたたきつけられて、その川底の一番低いところで、渦がぶわっと回転していて、そこで体がぶわっと回されて、そこから出れない。13m下で。

結局、滝の下の滝つぼは渦を巻いていて、ペットボトルが下流に流れないみたいな、そういう状態で。そこで、ぶわっと体が振られて、もう懸命にそこでもが

いてもがいて、その渦の中から出て、出たけど、上か下か、右か左かわからん。でも、真っ暗闇の中で、この水の中で、かっと思いをあけて、とにかく生きたいから、生きるために、こいで、こいで、こいで、泳いで、泳いで、渾身の力を奮って泳いで、2分たち、3分たち、それが4分なのか5分なのかわからんけれども、もう限界、もう吐きたい、吐きたい、吐きたい、ぶわっと吐きたいと思って、吐いたら死ぬ、死んだらいけんと思いつつ、最後、ぱっと一かきやったら、川の上へ上がったときに、ひょっとしたら、これは助けてもらえるかもしれないと思いました、ということでありました。結局、その消防士は生きて帰ってきてくれました。

そのような生存情報が次から次へと入ってくる間に、午後11時半に、岡山にいた人は、あの日、聞いたかもしれませんが、ドーンという音がしたと思います、大爆発。これを市役所の2階で、災害対策本部で、私も聞いておりました。市役所、揺れました。震度4ぐらい。それで、このドカーンという音が何なのかわからなかった。その時、僕は直感的に高梁川が切れた(決壊した)と思いました。いかれたかと。これが来たとき、遂にこのときが来たと思いました。その窓をあけて、あっちの辺の高梁川の土手が切れたと、そこをずっと見ながら、真っ暗の外を見ながら、これ、東日本大震災のように11m、12mの津波のあの黒いのが、波がどうってこっちへ来るなと思いました。

これはね、人間は、皆さんも今は平常時ですけど、刃物を突きつけられて、「こらっ」とかやられたときに、怖さを通り越えるみたいなんがあるって、腹が据わる。不思議なものが宿ってくるというか。僕も、ドーンと来て、切れたなと思ったとき、天かどっかから違う自分が宿ってきて、来るんなら来いと思うんです。勝負せんかと本当に思えて、来るんなら来い、戦おうじゃないかというふうに思いました。これ、自分の死ぬ風景も何となく予想できるから、でも自分は最後まで絶対逃げんぞという気持ちと、いろいろなものが覚悟として宿ってくる。これは不思議なものです。多分、皆さんもいざとなったときに「どうだ！」とやってやられたときに、腹が据わることがあります。そのとき、来るんなら来い、と本当にそう思います。

数分後に、消防長が、さっきの音は高梁川が決壊した音ではなくて、高梁川の川沿いにある朝日アルミという会社、これはみんなが飲んだ缶ビールの空き缶とかアルミサッシの窓枠の廃材とか、そういうのをどろどろに溶かして、アルミニウム原液にして、アルミニウム、高いんです、聞くところによると、1トンが300万する。それ、20トンあった、いわゆる6,000万円あったということです。そのようなどろどろになった溶液が溶鉱炉の中にありました。急激な水位の上昇で、高梁川の水が一気に20トンあるアルミニウ

ム原液の700度の中に大量に流れ込み、アルミニウムの溶解700度と水が水蒸気爆発をして、1秒以内に容量1のものが1,700倍になるという大爆発が起きました。20トンが1,700倍になったということです。そのアルミニウムが火の玉になって、下原地域115世帯に、空に向かって、真備町に向かって、一気にバーンと火の玉が飛んでいった、その爆発が午後11時35分だったということです。

その数分後に、僕のこのスマホに、その下原の責任者から、「市長、助けてくれ、すぐ迎えに来てくれ、みんな血だらけだ、助けてくれ」という声です。それを、「よっしゃ、わかった」ということで、迎えに行きました。そこら中、火事だらけで、消防隊は、水難者、高梁川にのまれた人間を救うどころか、その火事を消すことに大勢力をとられて、高梁川の遭難者をひとまず諦める状況でありました。我々は、その大爆発の現場から、115世帯の住民をピックアップして、体育館に避難させたということをやりました。

本当に、いっぱい流されている、何人死んだかわからないというときに、僕は高校生と結構Twitterで結ばれていて、TwitterのDMで、高校生の女の子から、「市長さん、高校生の私たちでも何か、総社市、今こんな大変なことになってるけど、助けることができますか、お手伝いできますか」と言うから、「あると思う、市役所に来て、手伝ってくれ」ということを条件反射的に打ち返しています。

「逃げてくれ、逃げてくれ」をずっと続けていて、午前0時を越える間に、町内会長から、「何人逃げました」、「全戸を回って確認して、お年寄り担いで、きびじアリーナに全員逃げました」、次から次へ報告が来て、結局、我が総社市はその瞬間に8,614人が44の避難所に逃げました。これが、総社市人口7万の実力です。決壊する手前で、決壊する寸前で我々は助かりましたけれども、もし、本当に決壊して、どばっと水が来たときに、その8,614人は死ななかつたということです。ですから、我々は8,614人を救えた。

ただし、残りの6万人は逃げなかつた、逃げなかつたんです。皆さん、そういうことなんです。避難指示といっても、7万人のうち、逃げたのは8,614人、それが総社市の実力、それだけしか逃げない。それだけです。だから、我々はこれからも訓練に訓練を重ねて、この人数を増やしていくということがテーマです。それを課題として、鍛え上げていくことが必要です。

だんだんだんだん明るくなってきて、夏のことから、5時過ぎ、6時過ぎには、もう白み始めてきます。いろいろな情報が飛び込んできて、市長、警備員さんの9人のうち7人が、左側の岸の竹やぶにひっかかってました。竹やぶの竹の突先にみんなつかまって、6時間、みんな声かけ合って、「諦めるな、諦めるな」と、

竹やぶの笹につかまって、体は水の中で冷たいんです、あれ、夏だけど、その中でずっと我慢して、助かった、7人。これは、もう壊死寸前になっていて、筋肉が腐っているという手前まで行っていましたが、助けることができました。すると向こうに3人。一番うれしかったのは、消防士のもう一人、3人の内2人が上がってきたと言いました。最後の一人が、高梁川、瀬戸内海に行く寸前の中州にある木の一番突先に残って、生きておりました。これも本当にうれしかった。市役所の職員は本当に、3人目が「生きとったで」と言ったときに、真っ暗な庁内、市役所の中が、職員の拍手で沸き上がりました。よかった、本当によかった。結局、20人のうち、あれやこれやで16人上がってきました。

その後、移送中とか何だかんだで6人亡くなって、総社市内、10名の命を失ったということになります。真備町も、その時点で51人。あの一瞬のことです、7月6日の午後9時から明け方までの間で、約80人の尊い命が瞬間的に奪われたということです。災害は、のるか反るかの勝負です。そのときに、死者を何名減らせるか、その勝負を災害対策本部はやるということです。



朝方になって、市役所の前の広場を見たら、1,000人ぐらい、人が集まっています。瞬間的に、「だから言うたじゃねえかと、高梁川の土手をもっと高うせえいうて、市長、言うたじゃねえかと、だからこうなったんじゃ」と言う住民、「どう補償してくれるんなら、何ぼ金が出せるんなら」と言う住民が、市役所に押し寄せて、大暴動が起きたと思いました。覚悟を決めて、まあ行くか、これは、お詫びをするしかないわけなんで、行こうと行って、おりにかけて、おりに、下を見たら、その1,000人は、何とTwitterで集まった高校生たちだったんです。

この高校生たちが、「市長、何か手伝わせてください、何かやらせてください、大変なことになってるじゃないですか、僕らにやらせてください」と、そう言ってくれました。「よっしゃ、わかった。ありがとう、本当にありがとう。なら、バスをチャーターするから、みんな、現場へ行って、泥かきしてくれ。水につかった家にこれから行って、泥かきしよう」と。「行きましよう、行きましよう」と、20台チャーターして行きました。僕も一緒に、

一番激しかったところに行きました。その一番激しかったところは、現場に着いて死亡確認がとれましたけれども、消防隊が流されたところ。2階の屋根で女の人が、自分の婚約者と呼んで、助けに来てくれたけれども、婚約者は波にさらわれて、目の前で死んだ、そういう場所でした。作原というところですよ。

そこへ高校生と一緒にいって、高校生の出で立ちを見たら、しょうがないですよ、Twitterで集まってる、何するかもわからずに来てるわけですから。半ズボン、スニーカー、半袖、もう無防備。これを写真に写して、『本当に総社の高校生たち、立ち上がってくれてありがとう』とツイートしたら、大炎上。この市長、未成年を使って、何やってる、破傷風になったらどうする、安全靴はないのか、帽子、マスクはどうなんだっていうので、大炎上しました。そんなもの、くそ食らえです。こんなもの、くそ食らえ、どんどん炎上しろ。

だけど、その高校生たちは、「市長、泥が腰まである、腰まであるけど、スニーカーしか履いてないけど、みんなもう、泥の中で水泳だと思って、行こうや」、そう言いました。「ありがとう、行ってくれ」。そうこうしてたら、地元の住人の方々が来られたんです。僕に、もう大抗議。「どうしてくれるんなら、こんなになったじゃねえか。堤防をもっと高くしたらよかったんじゃねえか」と言われます。非難ごうごうの中で、高校生が、ほんなら行こうということで、みんなが飛び散って行って、それぞれの家に入って行って、タンスをかき出した。畳は8人でしか持てないんです、泥にぬれたら重た過ぎて持てないんです。それで、そこら中、かき出して、彼らは1,000人、毎日、8月31日の学校の休みの最後まで、1,000人、来続けたんですよ。

それが中学生に広がって行って、小学生に広がって行って、大学生にも広がって行って、岡山商大のみんなも来てくれました。それぞれの部活のチームでバスに乗って来てくれた人もいますし、自発的に総社に泥かきに来てくれた人も、岡山商大、たくさんいます。本当にありがたく、うれしく思っています。そして、高校生たちが、9月になっても10月になっても、休みの日に、我々を助けてくれました。住民たちの罵声が、「ありがとう」という言葉に変わったのは、実は総社の場合は、高校生のおかげです。高校生が、住民の力を、住民の声を、「ありがとう」に変えていってくれました。これも本当に、この1台のスマホから始まっていると思うと、炎上はするけれど、捨てたもんじゃないなと思います。

それから、公平平等と言ってると、有事の際は、公平平等はどんどん遠ざかっていきます。皆さん、水害というのは、お金持ちも貧乏人もないんです。みんなに平等に起こる災害です。地震は、お金持ちで結構頑丈な家だけ残ったみたいなことがあったりしますが、水害は全部流されるんです。総社の人は、お金、いっぱい持ってる。多分、皆さんのご実家なんかもそうだと思う



## 第6回「投資家と学生のための会社説明会」

2019.11.28

社会総合研究所 客員教授 近藤 一仁

去る2019年11月28日(木)に岡山商科大学 社会総合研究所 産官学連携センター主催の「IR講演会」が開催されました。冒頭には、井尻昭夫学長のご挨拶、閉会には大崎紘一副学長のご挨拶がありました。このIR講演会は、2014年から毎年秋の大学祭での「投資家と学生のための会社説明会」と題したイベントで、通算6回目となりました。大学祭は、ライブコンサートや模擬店で忙しいので、2017年からは11月下旬に開催しています。今回、ご参加いただいた2社の共通点は、①「大学発ベンチャー企業」である、②両社とも「人と地球を健康にする企業」であることが挙げられます。学部のゼミのご参加もあり、1社目の東京の「ユーグレナ」(東証1部、東京都港区)には100名近い参加者、2社目の広島「フェニックスバイオ」(東証マザーズ、広島県東広島市)には200名近い参加者が集まりました。文字通り、学生は勿論、学外から投資家、証券・銀行等から数十名の参加もあり、盛況な「IR講演会」となりました。



午後の3時限、4時限の2部構成のIR講演会でしたが、各コマの前に、主催者側から客員教授の近藤一仁が「IR就活の勧め」と題した講義を行いました。

東京からご参加となったユーグレナ経営戦略部の椋木直人IRチームリーダーから、『世界で初めて石垣島(沖縄県石垣市)で微細藻類ユーグレナ(和名:ミドリムシ)の食用屋外大量培養技術の確立以降の業績動向や今後の展望』について弁舌さわやかな講演がありました。広島からご参加のフェニックスバイオの島田卓社長からは、『動物(PBXマウス)を駆使した新薬開発支援のビジネスの内容や今後の展望』について分かりやすい講演がありました。

最後になりますが、全国の大学でも珍しい「投資家と学生のための会社説明会」を大事な「就活」にも活用し、就職してから3年で会社を辞めるような事がないように、公式Webサイト(HP)の分析を通じた「IR就活」を是非心掛けて欲しいものです。

## おかやま大学生人権啓発パートナーシップ推進事業： 第3回つぼみ講演会

### 「少年犯罪で息子を奪われた母の思い～少年犯罪被害について考える～」

2019.12.4

法学部法学科 准教授 加藤 摩耶

犯罪被害者支援同好会「つぼみ」は、2019年12月4日(水)、少年犯罪被害当事者の会代表の武り子氏をお招きして、第3回目となる講演会を開催しました。今回は聴講者にもより主体的な学びが得られる機会といたく、講演の後、武さんと岡山大学法科大学院教授・弁護士の吉沢徹先生にもご参加頂き、パネルディスカッションを行い、さらに聴講者全員でグループワークを行いました。



武さんはご令息を少年らの一方的な暴力で失った体験をもとに、被害者の会を結成され、少年法の改正にも関わってこられたことや、その活動には地域の人をはじめ多くの人の支えがあったことをお話されました。パネルディスカッションでは、近年被害者支援のための多くの法改正や条例の施行がなされたものの、それが十分に周知されず、きちんと運用されない実態があること等が明らかになりました。学生達は、制度があるのにそれが十分活用されないという法と実際の乖離や、被害者に適宜に助言し支える人材の必要性等を痛感したようです。地域の保護司の方々や他大学の学生達も参加して話し合いが行われました。

つぼみは法学部の学生が主体となっていますが、法学部にふさわしい学びの多い講演会になったのではないかと思います。

## 岡山県・地域を学んでのこさずたべよう事業

経営学部商学科 教授 三好 宏

### 1. はじめに

本学は、岡山県が平成30年度から実施している「地域を学んでのこさずたべよう事業」に今年度応募し採択（補助金交付20万円）された。これは、若い世代の食品ロス削減意識の醸成を目的としている。事業は、大学生が、食品が作られるまでの労力やそれが生まれる地域の土壌・風土等をフィールドワークし、その内容の教材を作成して小学生に出前授業をするというもので、本学は備前市立三石小学校（全校児童66名）の3年生9名に授業をするということが決定した。以下、その取り組みの概要について報告する。

### 2. 事業の概要 ～授業内容を中心として～

#### (1) 参加学生

本事業には、経営学部3年生4名、2年生1名の学生が参加した。うち4名は教職課程を履修している。三石地区には計7回フィールドワークや打ち合わせで足を運んだ。

#### (2) 三石地区の特徴

備前市三石地区は参勤交代の宿場町として栄え、明治に入ると石筆の原料であるろう石の生産で潤った町である。高度経済成長期には、耐火煉瓦の全国7割の生産量を誇り、鉄道も岡山県内ではいち早く開通した地域である。

#### (3) 授業内容

**授業方針：**学生たちは三石地区にはこれといった特色ある食べ物が無いことから、備前市を代表する備前焼に注目した。小学校では毎年全校生徒が備前焼を制作するという授業を行っていることや、備前焼は食器として食べ物とつながると考えたからである。また、同地区の産業を支えてきたろう石と耐火煉瓦に関する内容も授業に盛り込むことを決めた。さらに小学校との事前打ち合わせの結果、小学生と大学生一人ひとりが備前焼のお皿を作って授業で活用することになった。

**授業内容：**授業は12月2日の3時間目と4時間目に行われた。初めの授業は「三石地区のろう石のことを知り、人に伝えることができる」を目標とし、ろう石を発見した歴史上の人物八木浄慶氏に焦点を当てたクイズから進めていった。石筆の現物を見せたり、ろう石工場がたくさんあった時代に働いていた人がよく利用したのはどんな食堂か（正解は、忙しいので早く食べ終わることができるうどん屋）、自分だったらろう石で何を作るかといった質問をしたりしながら、三石の今があるのはろう石のおかげであるとまとめた。次

の授業は「食事をどうすればおいしくできるかを知る」をテーマに進めた。黒板に赤や青のマットを張り付け、その上にオムライスやカレー等の写真をかたどった教材を小学生たちに置かせることで、おいしく見える組み合わせを考えさせた。さらに、例えば青い色のカレーはどう思うかなどの質問も行い、色の工夫で食べ物がおいしくなることを気づかせていった。そして備前焼が食べ物に対して持つ様々な効果、鮮度が長持ちする、ご飯つぶがつきにくい等を説明し、改めて地元備前焼のすごさを小学生に伝え、実習として、自分が作った備前焼のお皿の上に、てんぷらや卵焼き、焼き魚、野菜等の紙粘土のサンプルをどう盛り付けたらおいしく見えるかを試してもらった。まとめとして、食べ物には生産者、お店、おうちとそれぞれの段階でおいしく食べるための工夫がされていることを意識し、食べ物を大切に食べようと締めくくった。

### 3. おわりに ～授業を終えて～

学生たちはフィールドワークを進めていくにつれてネタをしっかりと見つけ、深みのある授業に仕上げることができたと思う。小学校の先生方からも、内容、方法とも予想以上の出来とお褒めの言葉を頂戴した。学生たちの感想も、今後の学びに大変貴重な経験になったというものであった。何より、授業後の小学生たちの満面の笑顔が、今回の学生たちの取り組みに対する評価が一番表していたのではないだろうか。







### 10 湯原温泉のイベント協力 (露天風呂の日、はんざき祭り)

2019.6.25～26、2019.8.7～9

湯原温泉(真庭市)

商学科:4名

(露天風呂の日)

商学科:12名

(はんざき祭り)

- 湯原温泉におけるイベント(露天風呂の日、はんざき祭り)に関する運営補助を行った。
- はんざき祭りでは、学生による地元商店と協力した商品の販売や、他のフィールドスタディで学生が関わった地域特産物の販売を実施した。

商学科 大石 貴之 准教授



### 12 エコナイトでの発表、平成 30 年 7 月豪雨 災害の募金活動

2019.7.13

岡山市泰選町商店街

経営学科:2名

商学科:8名

交換留学生:1名

- 商品活用の射的ゲームや本学が関係する地域の特産品を販売。
- ステージ発表では、本学のフィールドスタディの取り組み報告。

商学科 三好 宏 教授



### 18 ハングル語学研修

2019.8.16～21

韓国忠清大学、ソウル市、全州韓屋村

経営学科:4名

商学科:3名

経済学科:2名

●忠清大学で韓国語の講義を受講。

●全州韓屋村とソウルでの郊外研修。

●韓国の文化体験や、中国・台湾学生との交流。

●成果発表会を最終日に実施した。

商学科 ソ コンソ 講師



### 36 奥出雲町農泊推進協議会農泊 モニターツアー

2019.11.23～24

島根県奥出雲町

留学生:10名

- 地元の観光団体が用意したプログラムを留学生が体験し、改善点等の意見を出す。
- チーズ作り体験や温泉など盛り沢山なメニューに対し、楽しみながら多くの意見を出すことができた。

商学科 三好 宏 教授、産学官連携センター



### 18 海田天日干し番茶プロジェクト への協力

2019.7.16～18

美作市海田地区

商学科:1名

- 伝統的番茶製法と茶畑景観の保存に取り組む地元団体の番茶製作へ協力。
- 今年は授業日と重なり、4年生1名のみ参加。
- いただいた番茶は袋詰めし、学祭、近隣のイベントで販売した。

商学科 三好 宏 教授

### 19 観光地計画論

2019.8.19～22

萩山高原(真庭市)

商学科:8名

●観光施設の経営者に対するインタビュー調査や、観察調査を実施した。

●現地調査を踏まえて、萩山高原を紹介する観光パンフレットを提案した。

商学科 大石 貴之 准教授、西 春奈 助教



### 20 中国四国農政局インターンシップ

2019.8.19～9.13

農林水産省中国四国農政局(岡山市)

法学科:1名、経営学科:2名、商学科:1名

●中国四国農政局との包括連携協定に基づくインターンシップ。

●農泊に関するHP、パンフの作成を行った。

産学官連携センター

### 21 東京研修

2019.8.28～29

日本銀行、東京証券取引所、貨幣博物館

経済学部:1～3年生(有志6名)

●日本銀行、東京証券取引所、貨幣博物館へ見学を行った。

経済学科 井尻 裕之 准教授



### 22 テーマパークデザイン論

2019.8.27～30

徳島県名西郡神山町

商学科:7名

- 神山町における地域づくりの現状を把握するため、移住者や地域づくり活動を実践する方々に聞き取り調査を実施し、その結果を発表した。
- 地域づくりを実践している地元住民や移住者との交流を実施した。

商学科 大石 貴之 准教授、ソ コンソ 講師

西 春奈 助教



### 14 浴衣をきて日本文化体験

2019.7.20

岡山市立京山公民館

経済学科:1名

経営学科:1名

商学科:4名

交換留学生:1名

- 日本の夏祭りには欠かせない浴衣を着て伝統文化を体験する交流会に留学生が参加した。
- 着付けの後、伝統的な遊びも体験した。

産学官連携センター



### 15 浪漫ティック奉還祭での「税金ゲーム」運営補助

2019.7.27

岡山市泰選町商店街

経営学科:1名

●岡山西法人会より依頼があり、第25回浪漫ティック奉還祭にて行われる「税金ゲーム」の運営補助。

産学官連携センター

### 16 「備前醤油の歴史・現状・展望」の調査研究のためのフィールドスタディ

2019.8.9

キッコーマン食品株式会社高砂工場(高砂市荒井町新浜)

商学科:7名

商学研究科:1名

- 兵庫県高砂市にあるキッコーマン食品株式会社高砂工場を訪れ、工場見学をするともに、同工場の歴史や現状について説明を受けた。

商学科 天野 雅敏 教授



### 9 日ようび子ども大学「キッズマネー教室」開催

2019.6.16

岡山県生涯学習センター

商学科FPコース

2年生:9名

1年生:6名

- 大学コンソーシアム岡山主催の日ようび子ども大学にて「キッズマネー教室」を開催。
- FPコース2年生が中心となり、参加児童45名に対して小学生向け金融リテラシー教育を行った。

商学科 海宝 賢一郎 准教授



### 11 日生カキオコまちづくりの会主催 高校生&大学生「日生海のそば」Lab.(ラボ)

2019.7.13

カキオコ協賛店

きたろう(備前市日生地区)

経営学科1名、商学科:3名

- 夏メニュー「日生海のそば」を広報するため、若者向けメニューを各チームに分かれて作成。
- 本学は日韓合同チームとして辛い海のそばを作成し、高校生の2チームが作ったものと食べ比べ、グランプリを決めた。

産学官連携センター



### 17 「キッズマネー教室」開催

2019.8.9

吉備信用金庫本店(総社市)

商学科FPコース

2年生:10名、1年生:15名

- 吉備信用金庫との協働で「きびしんキッズマネー教室」を開催。
- FPコース2年生が中心となり、参加小学生27名に対して小学生向け金融リテラシー教育を行った。

商学科 海宝 賢一郎 准教授



### 25 観光サービス実習

2019.9.5～8

真庭市(湯原温泉)

商学科:6名

●古林さんから砂湯など湯原温泉街周辺に関する説明や、コンテンツなどの施設観察による情報収集。

●ホテル・宿泊施設の業務実践を体験した。

●成果発表会を最終日に実施した。

商学科 ソ コンソ 講師



### 28 「子どもたちに笑いを!! 桂かい枝がやってくる」運営補助

2019.9.6

倉敷市真備町

(二小小学校)

経営学科・商学科の教職課程履修者6名

●教職課程の防災教育の一環として実施

●西日本豪雨による防災復興ボランティアも兼ね、桂かい枝さんの落語会の運営担当

商学科 吉田 信 教授



## 27 キッズビジネスパーク 2019

2019.9.9  
岡山ふれあいセンター（岡山市）  
法学部：1名、経済学部：3名、経営学部：19名、商学科：4名  
●岡山青年会議所主催の「キッズビジネスパーク2019」にて、学生が店長となって出展企業や高校生と共に職業ブースを運営し、小学生の就業体験のサポートを行った。  
商学科 海宝 賢一郎 准教授  
産学官連携センター



## 28 AZAE プロジェクト 秋の北房お大師巡り調査

2019.9.21～23  
旧北房町、皆部（あざえ）商店街（真庭市）  
経営学部：1名 商学科：2名  
●北房観光の新たな資源となりうるお大師巡りを体験調査。  
●教職員が北房お大師巡り88ヶ所のまわりきれなかつた箇所を再調査。GPSを使って正確な場所を調査する。  
商学科 三好 宏 教授、産学官連携センター



## 29 里庄まこもたけブランド化推進 検討支援事業

2019.10.3、5、7、14  
2019.12.17、2020.2.17  
里庄町  
商学科：9名  
●まこもたけ新規生産者への収穫支援（2日間）と、直売者やイベント会場でアンケート調査を実施した。  
●調査結果をもとに販売単価向上に関する検討を行い、その内容を生産者会議の場で報告した。  
●2名の学生が卒論として取り上げた。  
商学科 三好 宏 教授、産学官連携センター



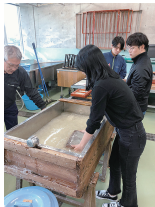
## 31 社祭り（式内八社の大祭）

2019.10.9  
真庭市社地区  
経済学部：1名  
商学科：2名  
●真庭市から神輿の担ぎ手がいないと依頼があり、運営協力。地域の方と共に他大学の学生とまじって、巫女役や神輿を担いで回り、地域の文化や伝統にふれた。  
産学官連携センター



## 32 国際観光論

2019.11.2  
島根県浜田市（石州和紙会館）  
商学科：15名  
●浜田市立和紙会館では石州和紙の紙漉きを体験した。  
●石正美術館では「コネスコ和紙展～伝統の3紙・新時代の魅力～「華麗なる和紙作品展」」を見学した。また、伝統の技と原料で漉いた和紙で作られた作品について学んだ。  
商学科 ソ コンゾン 講師



## 33 国際観光論

2019.11.9  
広島県廿日市市（厳島神社）  
商学科：15名  
●ボランティアガイドより厳島神社についての説明を受けた。  
●千疊閣・五重塔・多宝塔・大願寺など宮島の主要な観光資源の調査を行った。  
商学科 ソ コンゾン 講師



## 34 カキオコブース出店協力

2019.11.9～10  
岡山県総合フラウンド  
経営学部：1名  
商学科：7名  
●カキオコまちづくりの会がイベント出店の会を協力。  
●ソースを差せる等カキオコの仕上げ、販売呼び込み、行列整理、代金授受等を行い、賑わいをもたらした。  
産学官連携センター



## 35 竹灯籠づくり

2019.11.16  
真庭市社地区  
法学部：4名  
経営学部：1名  
商学科：1名  
●社地区の大晦日のイベント「第4回やしろ竹あかり」用の竹灯籠を地区の子どもたちや岡山県立大学の学生と共に作成。  
産学官連携センター



## 37 おかやま大学生人権啓発パートナーシップ 推進事業「つぼみ」講演会

2019.12.4  
岡山商科大学  
犯罪被害者支援同好会「つぼみ」の学生：20名（法学部法学科）  
●令和元年度 岡山県 おかやま大学生人権啓発パートナーシップ推進事業に採択され、武るり子氏をお招きして講演会を行った。  
犯罪被害者支援同好会「つぼみ」  
法学部 加藤 摩耶 准教授



## 38 「みんなで笑おう たけのご寄席」 運営補助

2019.12.7  
倉敷市真備町（上井公民館）  
経営学部・商学科の教職課程履修者10名  
●教職課程の防災教育の一環として実施  
●西日本豪雨による防災復興ボランティアも兼ね、桂かい枝さんの落語会の運営担当  
商学科 吉田 信 教授



## 39 AZAE プロジェクト 真庭イルミネーション・北房まち駅祭り運営補助

2019.12.7～8  
コスモス広場、北房まちの駅 AZAE センター（真庭市）  
経営学部：2名、商学科：4名  
●真庭イルミネーション点灯式において、オーブオイルや景品を配布、真庭公式キャラクターの着ぐるみを着用する等、イベントを盛り上げた。  
●北房まち駅祭りでは、府中焼きの店を出店すると共に、本学の活動を広報した。  
商学科 三好 宏 教授、産学官連携センター



## 40 2019年度人生100年時代の社会人基礎 力育成グランプリ（中国・四国地区予選大会）への 参加

2019.12.7～8  
松山大学  
経済学部：3年生（有志2名）  
●経済学部より1チーム出場した。見事に最優秀賞を獲得し、全国大会への出場が決定した。  
経済学部 井尻 裕之 准教授



## 41 北房まちの駅大掃除

2019.12.27  
北房まちの駅 AZAE センター（真庭市）  
経営学部：3名  
商学科：2名  
●元地域おこし協力隊の姜さんが経営する「旅人食堂」を視察し、新年に向けて北房まちの駅の大掃除を行う。  
商学科 三好 宏 教授  
産学官連携センター



## 42 津山商業高校主催 高校生による ガイドツアー津山によろこそ 2020

2020.1.11  
津山市内  
経営学部：1名  
商学科：1名  
交換留学生：6名  
●津山商業高校の生徒が津山市の観光名所を英語や日本語を使って案内を行う。  
産学官連携センター



## 43 京山公民館 ESD フェスティバル

2020.1.25～26  
岡山市京山公民館  
経営学部：1名  
商学科：3名  
●海田番茶やにんにく醤油漬、ホテルうどん他運携している地域の特産品を販売。  
商学科 三好 宏 教授  
産学官連携センター



## 44 AZAE プロジェクト 北房ふり市運営補助

2020.2.1～2  
皆部（あざえ）商店街（真庭市）  
商学科：3名  
●300年以上の伝統を持つイベントに、まちの駅 AZAE センターが出店するのを手伝った。  
●関西風お好み焼きの製造販売、センターが用意したぶりの海鮮巻やドリンク等を販売した。  
商学科 三好 宏 教授、産学官連携センター



## 45 2019年度人生100年時代の社会人基礎 力育成グランプリ（全国決勝大会）への出場

2020.2.17～18  
拓殖大学  
経済学部：3年生（有志2名）  
●中国・四国地区代表として出場した。残念ながら入賞とはならなかった。  
経済学部 井尻 裕之 准教授



## 奥出雲町農泊モニターツアー

経営学部商学科 教授 三好 宏

過去2回実施された留学生による農泊モニターツアーが、今年度は島根県奥出雲町で実施されました。2019年11月23～24日、中国人7名、韓国人3名の留学生が参加しました。奥出雲町は、ヤマタノオロチ伝説も残る古くからたたら製鉄が盛んだった歴史や文化が香る山間のまち。現在は砂鉄採掘や木を切り出した後を農地へと開墾し、「仁多米」というブランド米の産地としても有名です。

ツアー初日は「奥出雲たたらと刀剣館」、大邸宅の庭や抹茶でくつろげる「絲原記念館」、高さ45mのつり橋を渡り溪谷を周遊する「鬼の舌震（したぶるい）」などを訪問。地元お母さんたちと郷土料理「焼鯖寿司」づくりの交流も行いました。宿泊は築200年以上のかやぶき家屋に泊まり（都合により男子のみ）、町内にある温泉も体験しました。2日目は、尾原ダム散策、牧場でのバター作り他、トロッコ列車にも乗車するという文字通り盛りだくさんのメニューでした。

多言語表示の必要性や交通の問題も指摘されましたが、留学生たちから出た、お米がおいしい、棚田の風景がきれいなどの意見は、地元観光関係者たちに、奥出雲町が外国人にとっても有望な観光地となりうるという手ごたえを与えたようです。



## 北房まちの駅 AZAE センター運営補助について

### 産学官連携センター

2018年2月に行った農泊モニターツアーを皮切りに、北房農泊推進協議会と本学が連携して皆部（あざえ）商店街を拠点とした農泊プログラムの開発等に取り組んでいます。

今年4月には築80年の貸本屋（古民家）を再生したゲストハウス・ドミトリ兼観光案内所である「北房まちの駅AZAEセンター」が完成しました。現在、こちらの運営補助を中心に、留学生を含む学生や教職員が真庭市北房地区の観光やまちづくりに携わっています。

センターの業務を補助することは勿論のこと、まず客室案内を日本語・英語・中国語・韓国語の4カ国語に翻訳し、外国人観光客の方向けの案内を整えました。韓国やフランスなど海外の方も宿泊するため、文化生活圏が違う中で安全・安心に過ごせるよう工夫をしています。

また、内外の方に歴史文化を伝えるため、旧北房町を中心として広がる126カ所の寺院やお堂を「令和版北房お大師巡り」として調査し、マップや冊子として今後まとめる予定です。地域の方の内発的動機付けを高めると共に、同センターで行っている体験プログラムとしての活用も視野に入れています。

今後も地域の方が行う地域資源を活用した経営のお手伝いができるよう努めてまいります。



# 「キッズビジネスパーク 2019」における 学生ボランティア活動

社会総合研究所 次 長  
経営学部商学科 准教授 海宝 賢一郎

本年度で6回目を迎える公益社団法人岡山青年会議所主催の「キッズビジネスパーク 2019 ～もっとおかやまが好きになる～」が、2019年9月9日に岡山ふれあいセンター（岡山市中区）で開催されました。

これは小学校3年生～6年生の児童を対象とした就業体験イベントで、6回目を迎えた今回は、参加児童500名、出店企業のべ45社（45ブース）という規模で開催されました。本学は、第1回目から毎年、学生ボランティアの派遣を行っており、本年度は1年生から4年生まで27名の学生がボランティアスタッフとして参加しました。

本年度は、「おかやまにしかない『らしさ』を発信し、青年らしい発想力をもって、誰をも魅了する事業を展開しよう！」をキャッチフレーズに、弁護士・税理士・歯科医師・薬剤師・理学療法士・アナウンサー・大工・ネイリストなどの例年の業種に加え、グラフィックデザイナー、動画クリエイター、Youtuberといった、子どもに人気のある職業が増えたのが特徴的でした。

参加児童は、「働いてみたい仕事を見つけたら、ハローワークでその仕事を登録し、所定の時間働き、終了時には本イベント用の通貨「ピーチ」で給与を受け

取り（1つの仕事で350ピーチが支払われる）、税金を納付した後に、その通貨を使って自由に買い物をする」といった小さな経済循環の中で、最大4つの仕事を体験できる仕組みになっています。

ボランティアスタッフとして参加した本学の学生は、7月に行われた事前ミーティングに参加し、開催日当日は、担当ブースにおいて店長としてリーダーシップを発揮して、参加児童が楽しく仕事の体験ができる環境づくりに取り組んでいました。

学生からの声として、「子どもに説明する難しさを学べた」「効率よく小学生に教える方法をスタッフ全員で話し合って決めたことが非常に勉強になった」「初対面の人との接し方が学べた」「小学生に接することで、人との付き合い方の原点を学べた」「子どもの発想力に驚かされた」など、子どもに教えることを通じてコミュニケーションの大切さを学んだようです。

このように、参加学生にとっても、大学の授業にはない貴重な経験を積むことができたものと思われま。2020年度も、多くの学生が参加して多くのことを学んで欲しいと思っています。



## 第8回 経済学部ゼミ対抗 プレゼンテーション大会について

経済学部 経済学科 准教授 山下 賢二

2019年度も経済学部3・4年生を対象にしたゼミ対抗プレゼンテーション大会を開催いたしました。8回目の開催となります。今年度は以下のようなテーマにもとづいて発表されました。以下、発表順に論題を紹介します。「企業選びのコツ」(佐藤ゼミ)、「便利なキャッシュレス」(渡辺ゼミ)、「最低賃金」(三谷ゼミ)、「The Japanese smart phone game」(山下ゼミ)、「電子決済 ー無現金社会ー」(駿河ゼミ)、「タピってる?」(佐井ゼミ)、「中国と日本の年末年始」(田中康秀ゼミ)、「最近の米中貿易摩擦」(田中勝次ゼミ)、「期限表示と食品ロス」、「増税、ポイント還元とキャッシュレス決済」(2論題・井尻ゼミ)。そして、昨年度に引き続き、経済研究同好会(受賞対象外)が参加し、2年生部員が「中国電力の発電費用」の論題で発表しました。ご覧の通り、今年度は軒並み実証的な論題がそろいました。例年、その年々に流行したことや話題になったことがテーマとして取り上げられる傾向があります。なかでも、キャッシュレス決済を取り上げたゼミが3つありました。これは2019年10月の消費税増税に伴いキャッシュレス決済が注目されたことを反映しています。流行ったものと言えば、タピオカについてのものもありました。また、この大会のテーマとして取り上げられるものの多くに日中比較や両国間の経済問題に関するものがあります。これは中国からの留学生(そのうちの多くが東大をはじめとする日本国内の有力大学院に進学)が多いことによります。このテーマの場合、経済問題の背後にある文化の違いも扱われます。たとえば、スマートフォンゲーム(ソシャゲ)に関するテーマでは「日本ではひとつのゲームが長年遊ばれるのに対して、中国では1年単位で変わっていく」ということが明らかにされましたが、このことは両国の消費者の性質や文化の違いを反映しています。自分たちのグループの中では「語るまでもない」当たり前のことでも敢えてプレゼンテーション(とそのための準備を)することで、「語る価値のある」ものであったことが明らかになります。この大会を通して得た日中の共通点と相違点はそのままビジネスにも役立つ知見でしょう。興味のおありの方がいらっしゃれば、来年の大会を見学しに来て下さい。

さて、経済学部では3・4年生だけでなく、1年生、2年生もそれぞれゼミ対抗のプレゼンテーション大会が行われています。1年生は前期の7月23日と後期1月14日の2回、2年生は1月11日に行われました。特に1年生については、初年度教育の強化の一環として今年度から2回行っています。1回目は山陽新聞の記事をもとに各教養演習(1年ゼミ)でテーマを決め、ポスターセッション形式で発表しました。山陽新聞を用いたことで地元・岡山をよく知る機会ともなりました。そして、2回目は自由論題で、プレゼンテーション方法もポスターとパワーポイントによる2本立てで行いました。テーマは実証的なものから学術的なものに至るまで多様でした。そして、2回目の大会はプレゼンテーションを通して岡山商科大学経済学部で1年間所属してどこまで成長したかを見せる機会でもありましたが、その成長ぶりに著しいものがありました。

来年度の経済学部のプレゼンテーション大会にもご期待ください。



## 玉野市と地方創生に関する連携協定を締結

本学では、地域に貢献する社会科学系の大学として、地方自治体が課題とする諸問題に対応するための教育研究活動を行っています。これまで、新庄村、笠岡市、瀬戸内市、岡山市、備前市、津山市、真庭市、和気町の8市町村と協定を締結し、地域貢献活動を実施してきました。

玉野市では、「たまの版生涯活躍のまち (CCRsea)」が推進する「いつもなにかが生まれるまちづくりを進めます。～交流支援機能の発揮～」において、農林水産省が新たな政策として取り組む「農泊」を、主な取り組みと位置づけています。2018年11月、たまの農山漁村魅力向上推進協議会、農林水産省中国四国農政局とともに、本学に所属する外国人留学生10名と教職員2名が「海洋型観光と漁業との協調」をテーマとした観光モニターツアーに参加し、玉野市の観光商品に対する感想を述べるとともに提言も行いました。

こうした取り組みにより、新たな観光商品の開発に学生のアイデアや教員の専門的な知見を反映することで、玉野市の持つ観光資源の有効活用につながるが考えられます。さらに、玉野市が実施するその他の施策・事業についても、自治体との連携活動を数多く行う本学としての協働が可能と考え、今回の包括協定の締結となりました。この協定により、市町村との協定は9つとなりました。

2019年5月23日に行われた締結式では、黒田市長から「様々な分野で地方創生を行っているが、それらを推進できるようお力添えをいただきたい」とのご挨拶がありました。井尻学長は、「地域と呼吸する大学として、積極的に協力していきたい」と応えられました。



## 岡山県立和気閑谷高等学校と高大包括連携に関する協定を締結

2019年7月16日に、本学において、岡山県立和気閑谷高等学校との間で高大包括連携に関する協定を締結しました。

和気閑谷高校では、文部科学省が今年度から実施する「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」地域魅力化型に指定(全国で20校)され、「『怒(じょ)』の精神を持って地域と協働する探究人の包括的育成」というテーマで、課題解決型探究学習「閑谷学」を主軸の一つとして事業を推進しています。この「閑谷学」が目標とする「地域との関わりを重視しながら、自ら学び、自ら考える姿勢と問題を解決していく力」を身につけるために、また、1年次の目標「探究学習を行うために有効な探究の学び方(発想法、調査法)」を学ぶために、本学に対し生徒への指導・助言の依頼がありました。

本学では、経営学部の三好宏教授による出前講義によりこの依頼に対応しましたが、さらに企業や団体の課題解決を行う「フィールドスタディ」や「発想法ワークショップ」において長年の実績があり、法学・経済学・経営学・商学・その他の分野での協力が引き続き可能であることが、この度の包括協定締結へと繋がりました。



## マレーシア ペナン州柔道覚書調印について

柔道部顧問 大谷 崇正

本学からは井尻学長はじめ7名が出席して上記の調印式が行われました。

締結に至った経緯は、約20年前のことでありますが、私が東南アジア柔道連盟のテクニカルアドバイザーをしていた時の会長(今回も来学 Johnny khoo)がペナン州の出身でした。それから個人的に親交を深め、柔道を通しての交流が始まりました。近年では2017年3月にマレーシアで開催された国際柔道大会に本学柔道部の選手12名を派遣、18年には夏季休暇を利用して学生4名を派遣しました。派遣要請の理由は、ペナン州は有名な観光都市であるが小さな州であり、マレーシア13州で競う日本であれば国民体育大会マレーシア版で常に下位、前回は12番目でした。そのため州知事を先頭に上位を目指すということで、柔道競技にも白羽の矢が立ち、khoo氏に柔道強化の命令が下されました。khoo氏は金メダル3個以上獲得の約束をしたとのことでした。そこで本学学生を4名派遣して強化の計画を立案しました。強化は短期間では無理であり、夏季休暇全てを指導にあてるため40日という長い期間で計画、その為8月末には学生の一歩の目標である全日本学生体重別選手権の中四国予選を放棄しなければならないが、それ以上の勉強にもなると説明したところ、快く引き受けてくれ派遣が実現しました。結果は金メダル6個、銀メダル3個、銅メダル3個と素晴らしい成績を上げることができ、大会終了後には部員4名はペナン州スポーツ大臣から報奨金まで頂くという素晴らしい成果を上げて無事帰国しました。

以上のことからペナン州スポーツ省と本学が正式に協定を結び交流を深める運びとなりました。

また調印式に先駆けて若手選手男女6名を5月23日から6月9日まで本学で受け入れ、指導しました。帰国後、香港、マカオで開催されたアジアジュニア国際大会で金メダル2個、銀1個、銅3個を獲得したとの報告を受けました。少しずつではありますが成果が表れてきたことを喜んでいますが、この協定締結を機に本学柔道部では異文化交流や社会教育を主とし、ペナン州は技術強化を主として長く交流を継続しようと考えています。



## 文部科学省 私立大学研究ブランディング事業

副学長 大崎 紘一

### 1. 2019年度活動報告

2017年度採択されたブランディング事業は、3年目を迎え、2018年度に追加した研究テーマが2つ、2018年度で退職され終了した研究テーマが1つで、2019年度は計16研究テーマが主として包括協定を締結している市町村で調査研究を実施し、2020年3月に向けて3年間の研究成果をまとめている段階であります。

岡山商科大学の研究のブランド化は、地域との『寄り添い型』による地域価値の向上であり、多くの研究テーマは、地域における課題解決型の課題を、地域の方々と本学の教職員、学生が協働して取り組み解決する方式です。2017年度から開始した研究のうち、地域産食品に関する商品開発、販売状況に関する6研究テーマは、実施の初期において成果をまとめられたことから、二松学舎大学との共同研究成果の出版事業として、ナカニシヤ出版から「フードビジネス」を2019年3月に出版することができました。

更に2019年度は、各研究グループは積極的に研究を進めており、本研究で進める『寄り添い型』としての地域との取り組み、また学生が地域で教育研究をする「フィールドスタディ」の取り組みは、今後の本学が地域と協働していく方向を示すものであります。また、二松学舎大学でも首都に位置しながら柏市、鎌倉市、倉敷市において地域連携活動を推進していることから2019年度も研究成果をまとめて出版しようという合意がなされました。そこで、本学のブランディング事業の成果の内から地域の課題に取り組んでいる以下の8研究テーマを選出し、「地域と大学-持続可能な暮らしに向けた大学の新たな姿-」を2020年3月に出版予定で作業を進めています。

「大学での地域実践型活動への取り組み」、大崎 紘一、三好宏、「まちづくりに向けた2つのKPI」、三好宏、「高齢者の就業と社会貢献活動」、國光類、「観光サインの多言語間影響」、松浦美佐子、黎曉妮、徐沅廷、全円子、湯文、「地域ブランド戦略に関する理論的検討」、横澤幸宏、「地方における中古住宅流通活性化の可能性」、海宝賢一郎、高林宏一、田中潔、「地域内の経済循環の分析・考察」、西敏朗、「岡山県津山市における農業・林業振興政策に関する産業連関分析」、加藤真也、田中勝次

現在、3年間の研究成果について取りまとめを行っており、『寄り添い型』の研究スタイルで地域の課題に取り組むことは、本学の研究教育スタイルとしてブランド化できる状況になっており、自己評価だけでなくステークホルダーの方々の評価も加えて、着実に発展をしていくことを望みます。

### 2. 学内委員会

- (1) 2019年度 第1回「研究推進グループ会議」の開催  
2019年7月17日(水) 16:30~17:30  
大会議室  
①2018年度の進捗状況、②研究推進グループ別事業予算要求書、③予算執行条件、④2019年度研究推進グループ別研究計画、⑤シンポジウムの開催について、⑥書籍の出版について
- (2) 2019年度 第2回「研究推進グループ会議」の開催  
2019年12月11日(水) 16:00~17:30  
大会議室  
①研究の進捗状況、②著書の出版、③シンポジウムの開催、④2020年度予算要求について

### 3. 広報パンフレットの配布

- ①商業教育に関する意見交換会  
2019年10月15日
- ②OTEX（岡山テクノロジー展）  
2020年1月23、24日
- ③岡山県産学官連携推進会議 玉野市産学官連携交流会  
2020年1月30日

## 科学研究費助成事業への取り組み

科学研究費助成事業（科研費）は、研究活動に必要な資金を研究者に助成するしくみの一つであり、文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的

とする「競争的資金」であり、同業者による審査を経て、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究に対して助成を行います。本学からも毎年多数の研究者が申請を行っており、2019年度は、以下の研究課題で研究費の交付を受けています。

### 2019年度採択中の科研費

研究種目・期間	研究課題	研究者（所属）
挑戦的萌芽研究 2016～2019	アジア和僑ビジネスと日本の地方農水産業：国際ロジスティックス・ネットワークの併呑	古川 澄明【研究代表者】（経営学部・教授）
若手研究（B） 2016～2019	複数事例の進展統合化グラフによる事業所内の潜在的リスク可視化システムの開発	箕輪 弘嗣【研究代表者】（経営学部・准教授）
基盤研究（A） 2017～2021	イギリス公法争訟における違法性の判断構造に関する研究	伊藤 治彦【研究分担者】（法学部・教授）
基盤研究（B） 2017～2020	配偶子凍結保存の増加と「ライフプラン」「ジェンダー観」の変化に関する学際的研究	粟屋 剛【研究分担者】（法学部・教授） 穴戸 圭介【研究分担者】（法学部・教授）
基盤研究（C） 2017～2019	「手術誘引」の研究	粟屋 剛【研究分担者】（法学部・教授） 穴戸 圭介【研究分担者】（法学部・教授）
基盤研究（C） 2017～2019	アイトラッキング・データを活用した消費者行動の分析	大東 正虎【研究代表者】（経営学部・教授）
挑戦的萌芽研究 2017～2019	認知症患者の人権保障に向けた学際的研究	粟屋 剛【研究分担者】（法学部・教授）
基盤研究（B） 2018～2020	ハンセン病医療倫理学の創出に向けた学術的基盤の構築とカリキュラム開発	粟屋 剛【研究分担者】（法学部・教授）
基盤研究（B） 2018～2022	ビッグマイクロデータの匿名性評価手法の開発	佐井 至道【研究分担者】（経営学部・教授）
基盤研究（C） 2018～2020	児童・生徒の批判的思考力の発達に基づく小・中学校社会科授業モデルの開発研究	前田 健一【研究分担者】（経営学部・教授）
基盤研究（C） 2019～2021	「新しい診療拒否」に関する学際的研究	粟屋 剛【研究分担者】（法学部・教授） 穴戸 圭介【研究分担者】（法学部・教授）

### 外部資金の獲得実績について

#### i. 公募、審査、採択の過程を経て獲得する競争的研究資金等

・ 2019年度 科学研究費助成事業 採択件数 11件 4,340千円

#### ii. 受託事業や共同研究に伴う研究経費等

・ 2019年度 受託事業 国等 3件 982千円

（総務企画課・産学官連携センター）



## 文部科学省補助金 平成31年度(令和元年度)私立大学等改革総合支援事業

副学長 大崎 紘一

令和元年度の文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」は、過去5年間の申請状況を踏まえて、大きく変更されました。申請するタイプは、タイプ1「特色ある教育の展開」、タイプ2「特色ある高度な研究の展開」、タイプ3「地域社会への貢献」地域連携型、タイプ4「社会実装の推進」の4分野になりました。特に研究が含まれるようになり、本来の高等教育機関の主である役割が申請タイプになったことです。また、2018年度までは地域貢献と大学連携とは一つのタイプでの申請内容でしたが、2019年度はグローバル化を申請タイプから外し、地域貢献活動に関するタイプ3、地域貢献に関する大学の体制に関するタイプ4の分野となりました。

### タイプ1

「特色ある教育の展開」は、過去6年間継続して採択され、大学内での対応は行っていますが、以下の課題があります。(1)教育の質向上の12項目では、IRの機能強化、アクティブラーニングの実施率の向上以外は、条件を満足しています。(2)高大接続の6項目では、入試に関する項目が条件を満足していません。(3)データ活用による教育展開とデータ活用人材の育成の6項目では、IRに関する項目以外は条件を満たしています。(4)多様な教育体制と社会との連携の6項目では、インターンシップ、新しい概念であるオープンエデュケーションへの対応が課題です。

### タイプ2

「特色ある高度な研究の展開」は、2019年度から実施される分野であり、以下の課題があります。(1)研究基盤・研究支援体制の9項目では、教員の国際公募、テニュアトラック制の導入、(2)連携等による体制整備・研究実施の6項目では、国内外の大学との包括協定による施設・設備の共同利用、共同研究の実施、(3)研究成果等の3項目では、査読付き論文の割合、研究成果のオープンアクセス等、教員各位の研究の質の向上のそれぞれで条件を満足していません。本学としてタイプ2について採択をされるために整備すべき課題についてそれぞれで前向きに取り組み、研究の発展を促進する必要があります。

### タイプ3

「地域社会への貢献」地域連携型は、過去6年間関

連するタイプで連続採択されています。(1)連携体制の5項目では、自治体からの経済的支援の条件が満足されていないのは、従来から対応をしていないからですので、今後対応を進める必要があります。(2)連携内容の11項目では、約半数の項目は条件を満足していますが、新規の項目である寄付講座、防災に関する人材育成については対応ができていません。地域の観光産業振興、リスクマネジメント体制の構築については、条件を満足できるように取り組んでいく必要があります。

### タイプ4

「社会実装の推進」は、2018年度までの地域貢献の一部が評価項目として含まれていますので、(1)本部機構の整備の3項目、(3)知の好循環関連の4項目では、対応ができています。しかし、(2)資金の好循環関連の6項目では、産業界との共同研究件数が少ないために研究資金の受け入れ額も少なく、ほとんどの項目で条件を満足できていません。(4)人材の好循環関連の4項目では、企業との人事交流、大学発のベンチャー支援体制の項目について条件を満足できていません。

2019年度の改革総合支援事業の応募内容が、大きく変えられましたが、本学としての教育、研究、産学官連携・社会貢献活動は、教職員、大学の成果のみならず、文部科学省の推進する事業とも関連付けて、補助金を獲得できるようにするのが、競争的環境での大学の進むべき方向であると考えます。

3月2日現在、2019年度の事業の採択状況の通知は届いていませんが、2020年度の予算案からもこの事業は継続されますので、申請に向けて大学全体として肅々と取り組みを進めていきます。

2020年4月1日付けで「中長期計画(10年)、中期計画(5年)」を公表することになっており、特に中期計画の目標を具体的にKPI(重要業績評価指標)で示すことが求められています。本学では、過去6年間改革総合支援事業に取り組んでおり、支援事業の4タイプに示される項目を中期目標のKPIに組み込むことにより、中期計画の実行により支援事業の項目を達成できることから、年度毎に達成目標との差異を「見える化」することで、具体的に中期目標を更に修正していく予定です。

## 日ようび子ども大学・FPコース・キッズマネー教室 開催

大学コンソーシアム岡山主催の「日ようび子ども大学」が2019年6月16日（日）に開催され、本年度も経営学部商学科のFPコース生が「キッズマネー教室」を行いました。FPコースの伝統行事となっている当プログラムは、小学生がゲーム感覚で「目標に向けたおこづかいの貯め方、使い方」を学習できるよう、金融リテラシーマップに基づきFPコースの学生がシナリオを考案し、運営する小学生向けの金融リテラシー教育プログラムです。

本年度は、FPコース生15名が参加し、司会進行役と児童の付き添い役を分担し、1回あたり45分の

プログラムを5回実施しました。参加児童は合計で45名となり、参加数が倍増した昨年に引き続き好評でした。特に、自ら率先して当プログラムを選び参加してくれた児童が多かったことに驚かされました。また、保護者からは、「普段はなかなか教えられないお金に関することを丁寧に教えてもらい、貴重な体験をさせることができた」との感想もいただき、小学生に向けた金融リテラシー教育の必要性と共に、学生主体で実施する意義を改めて実感しました。これからも、学生が「キッズマネー教室」を発展させ、継承してくれることを期待しています。



## エコナイト

2019年7月13日（土）に、大学コンソーシアム岡山の地域貢献委員会が担当する事業「エコナイト」が岡山奉還町商店街で開催されました。この事業は、環境問題への啓発を目的とするもので、ライトダウン活動、マイカー通勤の自粛、様々な啓発活動を県内の各大学で行っている中で、奉還町商店街でのイベントは11大学・短大の合同活動として奉還町商店街振興組合のご支援をいただきながら、土曜夜市に合わせて実施しているものです。

例年、各大学による環境クイズや手回し発電機によるエコ体験、電気を使わない楽器によるステージ発表などが行われ、商店街を訪れた方が足を止めていきま

す。

本学は、リユース・リサイクル品などを景品とした「射的」を例年どおり出展しました。普段はあまり関心を持たれない物でも、射的というゲーム性を加えることにより、自分の努力で手に入れた、という要素が加わることにより、再び価値のあるものに変えられるという取り組みです。その他に、美作海田地区の天日干し番茶、真鍋島のニンニクのしょうゆ漬けなど、フィールドスタディの中で発見した、地域の隠れた名産品などの販売も行い、学生のコミュニケーション力を高めるとともに、地域の取り組みを知っていただく機会となりました。



## 2020 年度の採用動向を予測

これまで就職・採用活動の日程等に関するルールは日本経済団体連合会が定めてきましたが、2020年度の卒業・修了予定者から「就職・採用活動日程に関する関係省庁連絡会議」で定めた日程（前年度同様）を遵守するよう政府は経済団体等に要請しました。このことから就職活動ルールは何ら変更されることなくスタートしています。しかし、就活中の学生にとっては大きな変化がありました。現在の就職・採用市場は「売り手市場」、学生側が優位な状況にあり、企業側はルールに従いながらも、他社よりも早く優秀な学生に出会うチャンスを狙っています。それを可能としたのがインターンシップ。文部科学省は「インターンシップとは、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う場であり、大学等の教育の一環として位置づけられる。企業の広報活動や採用選考活動とは一切関係ない」と言っていますが、就職支援業者の就職サイト（リクナビ、マイナビ等）から申し込みをする方式です。つまり「採用試験になんらかの影響がありますよ!!」と言っているようなものです。新卒通年採用のうわさとともに採用直結型のワンデーインターンシップが定着したのは2019年度の就職活動であったかと思われます（政府は短期間で実施される就業体験を伴わない企業等の業務説明の場をインターンシップとして認めていません。）。このインターンシップは3年生の夏休みごろから翌年の2月末までの間、土日関係なく開催され、これへの参加を優先して授業に出席できなかった学生も少なからずいたはず。表面上

では3月から例年どおり一斉に会社説明会を開催、母集団を形成し採用選考を実施。5月中旬ごろまでに内々定を出すという流れです。ただし、2019年はゴールデンウィークが長かったこともあり4月下旬に早々と内々定を出した企業も多かったような気がします。採用面接試験は4年生の6月以降とルールでは定められてはいますが2019年度も遵守する企業の気配をまったく感じ取れませんでした。この年度の就職活動を振り返り、2020年度は3月から開催される企業説明会が減ってくるのではないかと思います。特に2月中に開催されるワンデーインターンシップ（今後、名称は「1day 仕事体験」「1day 仕事研究」等に変更される。）を企業説明会としてみなし母集団を形成、3月1日の就活解禁と同時に採用試験を実施する企業が増えてくるものと考えています。つまり就活解禁は2月1日、採用試験開始は3月1日。内々定出しのピークは4月。なぜ、そこまで企業は先急ぐのか？？優秀な学生は就活スタートが早い⇒優秀な学生を採用したければ早期接触・囲い込み⇒採用試験。これがルール崩壊の要因です。その一方で優秀な学生は多くの企業から内定を得る⇒内定辞退率が高まる。この悪循環には企業も気づいているはずですが後戻りできない現実があります。就職活動ルールの厳格化を妨げているのは「売り手市場」なのかわかりません。

（注）2020年1月に執筆。2月以降、新型コロナウイルス感染症が国内で広がりみせ2020年度の就職活動に大きな影響を及ぼしています。このため2020年度の採用動向は予測できない状況となっています。

### 2020 年度卒業・修了予定者等の就職・採用活動に関する要請事項

就職・採用活動の円滑な実施及び学生が学業に専念できる環境の確保のため、2020年度（2021年3月）に卒業・修了予定の学生（以下「新卒学生」という。）を対象とした就職・採用活動について、政府として就職・採用活動を行う主体に広く要請する事項及びこのことに関する留意点等は、以下のとおりです。

#### 1. 就職・採用活動の日程

学生が学修時間を確保しながら安心して就職活動に取り組むことができるよう、就職・採用活動の日程については、次のとおりとさせていただきよう願っています。

- 広報活動開始：卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降
- 採用選考活動開始：卒業・修了年度の6月1日以降
- 正式な内定日：卒業・修了年度の10月1日以降

### インターンシップの取扱い

インターンシップは、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う場であり、大学等の教育の一環として位置づけられるものです。この趣旨を踏まえ、インターンシップの実施に当たっては、募集対象を学士課程3年次及び修士課程1年次の学生に限定せず、また、広報活動や採用選考活動とは一切関係ないことを明確にして行っていただくようお願いいたします。

また、上記の広報活動及び採用選考活動の開始日より前において、インターンシップと称した広報活動及び採用選考活動そのものを行うなど、インターンシップ全体に対する信頼性を失わせることのないようにしていただくようお願いいたします。特に、いわゆる「ワンデーインターンシップ」など短期間で実施されるプログラムの中には、就業体験を伴わず、企業等の業務説明の場となっているものが存在することが懸念されることから、こうしたプログラムをインターンシップと称して行うことがないようにしていただくようお願いいたします。

※政府が経済団体・業界団体等の長に発出した「2020年度卒業・修了予定者等の就職・採用活動に関する要請について」の一部を抜粋

## 『恕』の精神を持った探究人育成を目指して

岡山県立和気閑谷高等学校 校長 香山 真一  
教諭 安東 真美

### 1. はじめに

本校は来年創学 350 年を迎える日本最古の庶民を対象とした公立学校・閑谷学校を源流とする歴史のある学校で、現在は普通科 2 クラスと商業を中心に学ぶキャリア探求科 1 クラスの 3 クラス規模の学校です。今年度から 3 年間、文部科学省の「地域と協働する高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」に指定され、「恕」の精神を持った探究人を育成することを目標として、探究学習「閑谷學」での活動を中心とした地域協働事業に取り組んでいます。

### 2. 包括連携協定

今年 7 月 16 日、本校と岡山商科大学は、地域活性化のために包括連携に関する協定を結びました。主な目的は、「閑谷學」での指導助言や学生同士の相互交流、マーケティングや商品開発などの商業科目の授業での指導助言です。

この連携協定のご縁で、11 月 13 日に岡山商科大学孔子学院主催の「伝統芸術鑑賞会」を本校生徒と保護者を対象に開催していただきました。大連外国語大学音楽学科から学生と先生が来日され、二胡や琵琶、古筝などの中国の伝統楽器を演奏して下さり、生徒は、初めて耳にする中国楽器の透明感のある音色がとても美しく感動していました。日本の音楽との違いも感じることができ、さらに中国文化に関心を持ったようです。



### 3. 総合的な探究（学習）の時間「閑谷學」の取組

本校の探究学習「閑谷學」では、1 年次生は、探究の基礎を学んだ後、校内外の身近な課題を発見してグループで探究活動を行います。2 年次生は、SDGs の視点を持ちながら近隣市町（主に備前市・赤磐市・和気町）へとフィールドを広げてグループで探究活動を行います。3 年次生は、1・2 年次の探究の経験をもとに自らの進路にかかわる個人探究をし、各自 2,000 字の論文を仕上げます。

今年度は、1 年次生を対象に、経営学部三好宏教授に探究の手法（発想法、アンケート手法、インタビュー手法）を 3 回にわたって講義していただきました。その後、和気町の課題を町役場の方から伺い、生徒の興味関心により 5 つのゼミに分かれてフィールドワークを行いました。そこで見聞きした課題から仮説を立てて、アンケートやインタビュー手法を活用して検証していきました。



2年次生は上記2市1町の行政や教育委員会、商工会の方から市町の課題を伺い、5つのゼミに分かれて探究活動を始めました。7月のゼミ別中間報告会には、経営学部大石貴之准教授に講師を依頼し、「仮説を立てる前に目的の達成に向けてのステップをしっかりと考えれば違うテーマも考えることができる」ということを助言していただきました。その後、仮説（問い）をより具体化させ、2月の探究学習発表会に向けて検証を続けていきました。

本校の探究学習は、内容の深まりにはまだまだ多く課題を持っていますが、1年次から3年次まで一貫して「探究の過程（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）を繰り返す」とことと、調べ学習に終わらないよう活動を重視して「成功または失敗の体験から学ぶ」ことを指導しています。

#### 4. 学カステップアップハイスクール事業

本校は平成29年度より県の指定を受け、高等学校学力向上プロジェクト「学カステップアップハイスクール事業」に取り組んでいます。「一人ひとりをいかす教室づくり」による「学力向上」を目指す研究をテーマとし、事業完成年度となる今年度は11月14日に商業科と数学科が研究授業を行いました。商業科の研究授業は柴谷祐人教諭の1年生「簿記」の授業を対象とし、経営学部松田寿雄先生に事前の授業見学と指導案作成指導、当日の授業見学と研究協議のご指導ご助言をお願いしました。研究授業では、「なぜマクドナルドでは、店内飲食と持ち帰り両方、同じ価格で商品を提供できるのだろうか。」という本時の問いを立て、発展学習も取り入れながら消費税の内容を生徒に興味関心を持たせるよう工夫した授業展開を実施しました。



#### 5. コンソーシアムの取組

文部科学省の事業では、地域協働を推進する組織として、コンソーシアムを形成しています。本校では、今年度7月に近隣2市1町（備前市・赤磐市・和気町）の首長・教育長・商工会長（商工会議所会頭）・大学教授他から構成されるコンソーシアムを組織して「魅力化推進協議会」を開催しました。そして、12月には、岡山県立高等学校で初めてのコミュニティ・スクールに指定され、本校ではコンソーシアムを再編成して「学校運営協議会」を開催しました。

親会議であるコンソーシアムは、主に各団体のトップが構成員となるため、実務的な動きをする3つの部会（小中高接続部会、産学官連携部会、高大接続部会）を設けました。高大接続部会では、経営学部三好宏教授を委員に迎え、本校で育む7つのチカラ（①自分を理解する力②職業とつなぐ力③考える力④行動する力⑤コミュニケーション力⑥チームワーク力⑦自立する力）の構造化や、各教科の長期ルーブリックについてご意見をいただきました。

#### 6. おわりに

今年度、包括連携協定を結ばせていただいたおかげで、岡山商科大学の多くの教職員の方に本校の教育活動へのご協力をいただき、大変感謝申し上げます。次年度以降は、さらに学生同士の相互交流も図り、本校の探究活動をより専門的に深化させるなど本校と岡山商科大学との連携協働の活動をレベルアップさせていきたいと考えています。

## 教員免許状更新講習について

教員免許更新制は、「その時々で求められる教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すもの」と位置づけられています。

本学の更新講習が、今後の教育や研究活動の一助となり、また、県内外の高等学校の先生方同士の交流の場となり得ることができれば幸いです。

令和2年度も「選択領域2講座」を開講予定です。

詳細につきましては、本学ホームページ上でお知らせいたします。

募集要項の郵送も可能ですので、遠慮なく、お申し付けください。

多数のご参加をお待ちしております。

※教員免許更新制の詳細については文部科学省 HP ([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/koushin/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/index.htm)) をご覧ください。

### 令和元年度 教員免許状更新講習

8月7日(水)「高校生の金融リテラシー教育の課題と展望・携帯端末の技術とプログ  
ラミング(ビジネス経済・ビジネス情報処理)」 渡辺 寛之・小松原 実

8月8日(木)「マーケティング論・我が国会計制度の展開(マーケティング・簿記会計)」 西 春奈・内田 浩徳

★令和2年度のご案内については、本学HP (<http://www.osu.ac.jp>) をご覧ください。

教員免許状を更新するには、各自の修了確認期限前の2年間に、大学などが開設する30時間(必修領域6時間、選択必修領域6時間、選択領域18時間)以上の免許状更新講習の課程を修了し、免許管理者に更新講習修了確認の申請を行うことが必要です。

## 教職課程を履修して

経営学部経営学科4年

山口 優香

私は岡山商科大学で教職課程を勉強してきました。教員に憧れていたこともあります。何より自分の可能性を広げたいという気持ちが強く、教職課程を選択しました。同時に、柔道部にも所属したので、4年間も勉強と柔道さらに教職課程まで両立ができるのかと初めは不安もありました。しかし今思えば、新たなことを始める時に不安はつきものであり、それでも挑戦することが自信につながり、成長できるきっかけになることを実感しています。

教職課程を選択するということは、授業数が増えますし大変そうだという印象ですが、同じ目標を持った仲間と切磋琢磨する日々はとても充実しています。さらに、岡山商科大学には親身に私たちの夢を叶える為にサポートして下さる先生方がいます。高校の授業風景の見学や、様々なボランティア活動に参加するきっかけを与えてくださり、岡山商科大学でしかできないような経験をたくさんさせて頂きました。自分自身に新たな知識が増え、価値観が広がっていくことを実感できる日々は新鮮で、新たな自分が発見できて嬉しかったです。

教職課程を選択して良かったと思うことはたくさん

ありますが、教育実習を経験できることは本当に貴重だと感じます。人生において先生として教壇に立てることは、教職課程を頑張ってきた人にしか味わえないことです。私はそこで出会った生徒たちのおかげで、教員になりたいことを再確認できました。

そして4月からは、神戸市立神港橘高等学校で常勤講師として教壇に立たせて頂きます。生徒からも先生方からも信頼されるような人望の厚い教員を目指し、これからも成長していきたいです。まず一歩、岡山商科大学で私の夢が形になりました。



高校での教育実習風景(神戸市立神港橘高等学校)

海外の語学研修先として大連外国語大学など5ヶ国の大学へ留学することができます。現地でみっちり語学を学ぶとともに、現地を小旅行して肌でその国の文化に触れ、かつ制度的・恒久的な交流を行うことを通じて、国際感覚を磨くことを目的とします。

## 忠清大学校留学

派遣期間：2019年8月22日～2019年12月27日  
派遣先：忠清大学校（韓国）

経営学部経営学科3年 関口 樺純

私は、韓国の清州市にある忠清大学校に約4か月間留学しました。元々韓国の文化や街並みが好きだったこともあり、以前から韓国語の勉強をしていました。そのため語学力の向上、また自分自身の将来のヒントを見つけることを目的に今回の留学を決めました。

私が留学生活で学んだことはたくさんあります。まず、当たり前のことですが、現地で暮らすからといって現地の言葉が話せるようになるわけではないということです。周りの音を聞くだけで話せるようにはなりません。何事も努力が必要であるということに改めて気づきました。次に、自分の苦手とすること、足りないところに気づくということの大切さです。私は今回、韓国語に限らず、自分の性格についても至らない点を知り、またそれを克服するための努力をしました。その結果、帰国後も付き合い合える友達を作ることができました。私は運がいいことに他の3か国の留学生とも友達になることができ、その中で本当に様々な「人」がいるのだということに気づきました。それぞれの国の文化の違いがあるのはもちろんのこと、その中でも個

人で違いがあるということを知りました。

留学は、自分で考えていたよりも大変で、楽しい反面、言葉の壁や文化の違いのせいでストレスに感じたことも多くありました。それでも、留学経験のある友達が理解してくれてずっと一緒にいてくれたことで放り出さずに諦めずに生活することができました。ここで出会った友達や先生方は私にとって、とても大切で、これらの経験は私の人生においても大きな財産となったと思います。



## マルタ共和国語学研修

派遣期間：2019年8月17日～2019年9月8日  
派遣先：マルタ大学（マルタ共和国）

経営学部経営学科2年 中山 薫

私がマルタ共和国語学研修に行こうと思った理由は、海外の人と英語で会話をしてみたかったということとヨーロッパへ行ってみたいという願望があったからです。実際にマルタへ行き初日の授業を受けると、先生の英語を聞き取って授業についていくのがやっとでした。寮のルームメイトとも必要最低限の会話しかできず、3週間上手くやっていくことができるかどうか不安を覚えました。しかし、日を重ねるうちに土地にも言葉にも習慣にも慣れ、色々な国の友達ことができました。授業終わりに友達と一緒にご飯を食べに行ったり、観光に行ったり、プールに入ったりして、毎日マルタの文化や歴史を堪能することができました。ルームメイトとも雑談で盛り上がるのがしばしば増えて、一緒に買い物に行ったり、お互いにご飯を作り合って食べたりすることで距離がすぐ縮まったように思います。また、色々な人と話すうちに失敗を恐れず自分から話していけば、英語が上達するということが気が付きました。

この語学研修を通して沢山の事を学び、自信がつかえました。色々な国の人と会話することができて楽しかったし、英語を通じて沢山の友達を作れたことがなにより嬉

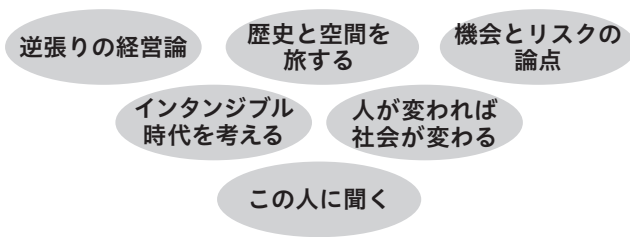
しかったです。語学研修を終えて行く前と比較すると、何事にも積極的になれたと思います。また、日本から遠く離れたマルタに一人で行ったという行動力が大きな自信に繋がりました。素敵な出会いがあって、思い出ができて、私自身が変わることができたと確信しました。研修に行くことで語学力だけではなくもっと大切なものを得ました。この経験をさせてくれた家族と、サポートして下さった先生方に感謝しています。



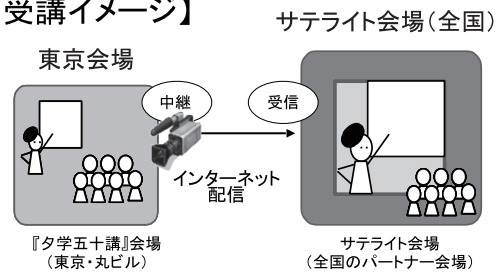
時代の“潮流と深層”を読み解く。

## 慶應丸の内シティキャンパスの定例講演会 『夕学(せきがく)五十講』(東京・丸の内で開催)を インターネットで全国へ中継配信

「時代の“潮流と深層”を読み解く」をコンセプトに、各分野の第一線で活躍する研究者・経営者・文化人等を講師に招いて開催する定例講演会『夕学(せきがく)五十講』(主催:株式会社慶應学術事業会)を全国で見られるサービスです。最先端の動画データ圧縮技術と安定した配信技術により、高精度の画質と迫力ある音声で受講していただけます。



### 【受講イメージ】



### 2020 年度前期配信講演一覧

2020年度前期は以上の6テーマに基づき、13講演を放映します。  
聞き逃せない、見逃せない、全てが1回だけの講義。  
岡山では岡山商科大学でしかご覧いただけません。

**5月14日(木)** 【人が変われば社会が変わる】

**高橋 孝雄** 慶應義塾大学医学部小児科学教室 教授  
「子どもを育む遺伝の力、環境の力」

**5月21日(木)** 【この人に聞く】

**田村 淳** ロンドンブーツ1号2号  
「ボクが慶應大学院で学ぶ理由」  
※トークショー形式の講演 60分、質疑応答 30分の構成です。

**5月22日(金)** 【インタangible時代を考える】

**井上 達彦** 早稲田大学商学学術院 教授  
「ゼロからつくるビジネスモデル: 3つの基本アプローチ」

**5月25日(月)** 【逆張りの経営論】

**松尾 睦** 北海道大学大学院経済学研究科 教授  
「部下の強みを引き出す経験学習リーダーシップ」

**5月26日(火)** 【この人に聞く】

**秋元 雄史** 東京藝術大学大学美術館 館長/教授、  
練馬区立美術館 館長  
「アートとビジネスの交差点から世界を考える」

**6月2日(火)** 【逆張りの経営論】

**大室 正志** 産業医  
「企業と個人の健全な関係」

**6月5日(金)** 【逆張りの経営論】

**安永 雄玄** 浄土真宗本願寺派築地本願寺 代表役員宗務長  
「築地本願寺の経営改革  
～ビジネスマン出身僧侶のお寺改革～」

**6月9日(火)** 【人が変われば社会が変わる】

**仲山 進也** 仲山考材株式会社 代表取締役、  
楽天株式会社 楽天大学学長  
「組織にいながら、自由に働く。」

**6月10日(水)** 【人が変われば社会が変わる】

**北野 唯我** 著述家、ワンキャリア取締役  
「現代における、強い会社の条件」

**6月18日(木)** 【逆張りの経営論】

**高橋 俊介** 慶應義塾大学大学院  
政策・メディア研究科 特任教授  
「経営人材に必要なリベラルアーツ」

**7月2日(木)** 【インタangible時代を考える】

**清水 洋** 早稲田大学商学学術院 教授  
「イノベーションは社会を創るのか、破壊するのか」

**7月14日(火)** 【機会とリスクの論点】

**飯山 陽** イスラム思想研究者  
「イスラム 2.0 ～イスラム理解のタブーを越えて～」

**7月16日(木)** 【人が変われば社会が変わる】

**仲野 徹** 大阪大学医学部 教授  
「(あまり) 病気をしない暮らし」

2020年3月16日現在の予定です。  
新型コロナウイルス感染症の拡大により、前期のサテライト配信は中止となりました。



## 2019年度 前期 サテライト配信講演実績 テーマ

新たな基軸を探る経営/日本と世界の論点/始まっている近未来/人間を考える/持続可能な社会を目指して/この人に聞く

4月11日(木) 【新たな基軸を探る経営】

清水 勝彦 慶應義塾大学大学院経営管理研究科 教授  
「戦略的意思決定力を鍛える～見えるものと見えないもの～」

4月12日(金) 【日本と世界の論点】

竹中 平蔵 慶應義塾大学名誉教授、東洋大学教授  
「日本経済の機会とリスク」

4月25日(木) 【始まっている近未来】

馬場 渉 パナソニック株式会社 執行役員・ビジネスイノベーション本部 本部長、  
パナソニック ノースアメリカ株式会社 副社長  
「大企業イノベーションの起こし方」

対談:

佐々木 紀彦 (株) ニュースピックス 取締役COO、NewsPicks Studios CEO  
※本講演は馬場氏の講演 60分・対談 30分・質疑応答 30分の構成です。

5月9日(木) 【人間を考える】

田中 利典 金峯山寺長、種智院大学客員教授  
「修験道の世界～身体を使って心を修める～」

5月10日(金) 【始まっている近未来】

安宅 和人 慶應義塾大学 環境情報学部教授、  
ヤフー株式会社 CSO (チーフストラテジーオフィサー)  
「シン・ニホン～AI×データ時代における日本の再生と人材育成～」

5月15日(水) 【持続可能な社会を目指して】

小泉 文明 株式会社メルカリ 取締役社長兼COO  
山本 晶 慶應義塾大学大学院経営管理研究科 准教授  
「C2C×デジタルが生み出す新しい経済圏」

※本講演は小泉氏の講演 45分・対談 45分・質疑応答 30分の構成です。

5月24日(金) 【この人に聞く】

太田 光代 株式会社タイタン 代表取締役、タイタンの学校 理事長  
「タイタンの学校のすすめ」

※本講演はトークショー形式での講演 60分・質疑応答 30分の構成です。

6月4日(火) 【新たな基軸を探る経営】

岩崎 博論 株式会社博報堂 ミライの事業室 ストラテジックプランニングディレクター  
「未来生活者発想でサービスをデザインする」

6月11日(火) 【新たな基軸を探る経営】

南 壮一郎 株式会社ビズリーチ 代表取締役社長  
「日本の働き方と生産性について」

6月14日(金) 【持続可能な社会を目指して】

白坂 成功 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授  
「超小型衛星でかわる宇宙ビジネスの潮流」

6月27日(木) 【日本と世界の論点】

デービッド・アトキンソン (David Atkinson) 小西美術工藝社 代表取締役社長  
「日本の魅力～その活かし方と伝え方～」

7月2日(火) 【新たな基軸を探る経営】

田村 次朗 慶應義塾大学法学部教授、ハーバード大学国際交渉学プログラム・インターナショナル・アカデミック・アドバイザー  
「対話型リーダーシップのすすめ～リーダーシップ基礎教育への挑戦～」

7月9日(火) 【持続可能な社会を目指して】

村上 絢 一般財団法人 村上財団 代表理事  
「資金循環で社会の問題を解決する」

7月17日(水) 【この人に聞く】

安部 龍太郎 作家  
「信長はなぜ葬られたのか」

7月31日(水) 【人間を考える】

吉田 裕 一橋大学大学院社会学研究科 特任教授  
保阪 正康 ノンフィクション作家  
「兵士達が見たアジア・太平洋戦争」

※本講演は吉田氏の講演 60分・対談 30分・質疑応答 30分の構成です。

## 2019年度 後期 サテライト配信講演実績 テーマ

脱常識の経営論/“際”をなくす/社会を変える、自分を変える/歴史と空間を旅する/日本と世界の論点/この人に聞く

10月2日(水) 【脱常識の経営論】

楠木 建 一橋ビジネススクール 教授  
「すべては「好き嫌い」から始まる」

10月10日(木) 【脱常識の経営論】

高木 聡一郎 東京大学大学院情報学環 准教授  
「デフレ・ミッシング概念で読み解くデジタル・トランスフォーメーション(DX)の本質」

10月16日(水) 【脱常識の経営論】

一條 和生 一橋ビジネススクール 国際企業戦略専攻 専攻長/教授、IMD客員教授  
「DX時代のリーダーシップ」

10月18日(金) 【“際”をなくす】

土屋 哲雄 株式会社ワークマン 専務取締役  
「ワークマンのビジネス変革と市場戦略」

10月23日(水) 【“際”をなくす】

青柳 直樹 株式会社メルベイ 代表取締役  
「キャッシュレス社会とメルベイの戦略」

対談:

佐々木 紀彦 NewsPicks Studios CEO、NewsPicks 取締役  
※本講演は青柳氏の講演 60分・対談 30分・質疑応答 30分の構成です。

11月6日(水) 【脱常識の経営論】

佐宗 邦威 戦略デザインファームBIOTOPE  
代表/チーフストラテジックデザイナー  
「想いを形に変える方法論」

11月13日(水) 【この人に聞く】

平尾 成志 盆栽師  
「日本の盆栽を世界のBONSAIへ」

11月19日(火) 【社会を変える、自分を変える】

樺島 勝徳 臨濟宗天龍寺派薬師禪寺 住職  
「禅で自然治癒力を高める」

11月26日(火) 【社会を変える、自分を変える】

宮田 裕章 慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室 教授  
「データ駆動社会における新たなヘルス・ケア」

11月29日(金) 【この人に聞く】

中川 順子 野村アセットマネジメント株式会社 CEO兼代表取締役社長  
「人生100年時代におけるキャリアと資産形成」

12月3日(火) 【歴史と空間を旅する】

渋澤 健 シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役、  
コモンズ投信株式会社 取締役会長  
「渋沢栄一の発創力」

12月10日(火) 【歴史と空間を旅する】

里中 満智子 マンガ家、大阪芸術大学キャラクター造形学科 学科長  
「万葉に輝いた女性達」

12月11日(水) 【この人に聞く】

中竹 竜二 日本ラグビーフットボール協会 コーチングディレクター、  
株式会社チームボックス 代表取締役  
「誰よりも学ぶことができるリーダーが組織を育てる」

1月16日(木) 【“際”をなくす】

本間 希樹 国立天文台 水沢VLBI観測所 所長/教授  
「人類が初めて目にしたブラックホールの姿」

1月31日(金) 【日本と世界の論点】

正能 茉優 ハピキRAFACTORY 代表取締役社長、大手電機メーカー正社員、  
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任助教  
「好きなこと“も”仕事にする パラレルキャリアという働き方」

# 商大講座のご案内

～出前講義：

講師がお近くまで伺います！～

岡山商科大学社会総合研究所  
〒700-8601  
岡山市北区津島京町 2-10-1  
TEL/FAX 086-256-6656 (直通)  
TEL 086-252-0642 (代表)  
E-mail syaken@po.osu.ac.jp

## お申し込みができるのは？

30名程度の聴講者が見込める、岡山県内の公共・一般団体や企業です。

## 講座のプログラムは？

次ページをご参照ください。

1講座は1時間から2時間（質疑応答を含む）の構成になっております。プログラムに掲載のないテーマにも対応させていただきますのでご相談ください。

## 費用は？

講師料は無料です。ただし、会場の手配・設営および案内発送に係わる事務作業や費用は申込者にてお願いします。（※受講者から料金を徴収されている場合は、講師料が発生します。講師料は応相談。）

## 申込手続きは？

お電話、FAX、Eメールで上記までお問い合わせください。

## 開講にあたっての注意

教員の都合等により、必ずしもご希望に添えないことがあります。

## 2019年度実績

開催日	講座内容	講師
4/22 (月)	商大講座 特別編 ～健康な心とからだづくりをめざして～ <b>「リフレッシュダンス教室」</b>	青山 敦子 (社会総合研究所 非常勤客員教授)  小野 陽美 (非常勤講師)
5/13 (月)		
5/27 (月)		
6/10 (月)		
6/24 (月)		
7/ 8 (月)		
7/22 (月)		
9/30 (月)	商大講座 特別編 ～健康な心とからだづくりをめざして～ <b>「リフレッシュダンス教室」</b>	青山 敦子 (社会総合研究所 非常勤客員教授)  小野 陽美 (非常勤講師)
10/ 7 (月)		
10/28 (月)		
11/11 (月)		
11/25 (月)		
12/ 2 (月)		
12/ 9 (月)		
12/15 (日)	商大講座 特別編 児島マリンスポーツクラブ、 シェイプアップ庄新町教室との合同開催 <b>「交流ダンス発表会」</b>	青山 敦子 (社会総合研究所 非常勤客員教授)  小野 陽美 (非常勤講師)
12/18 (水)	高松ユネスコクラブ <b>「まちづくりと商業について」</b>	三好 宏 (商学科 教授)
1/27 (月)	商大講座 特別編 ～健康な心とからだづくりをめざして～ <b>「ミニリフレッシュダンス教室」</b> ※ 3/16 は新型コロナウイルス感染症の拡大により、中止といたしました。	青山 敦子 (社会総合研究所 非常勤客員教授)  小野 陽美 (非常勤講師)
2/ 3 (月)		
2/10 (月)		
3/16 (月)		
3/16 (月)		

## 2019年度「商大講座」メニュー一覧

	テーマ	所属学部等	講師氏名	担当講義・専門分野
*注目イベント*	リフレッシュダンス教室 ～健康な心とからだづくりをめざして～	非常勤客員教授	青山 敦子	元 高校保健体育教師
		非常勤講師	小野 陽美	体育/ダンス指導
	発想法ワークショップ (はっ! そう?! ほ～。ワークショップ)	商学科教授	三好 宏	マーケティング入門 地域マーケティング
教養	非帰結主義の新たな展開 -厚生経済学の一側面-	法学科教授	九鬼 一人	哲学/倫理学/論理学
	戦後ドイツにおける「過去の克服」	商学科准教授	香月 恵里	ドイツ語/ドイツ文学
	・シェイクスピアと言葉 ・シェイクスピア劇におけるよりよい生き方	商学科教授	松浦 美佐子	英語学 英文学
法学	吉備の古代史入門	商学科特任教授	福本 明	博物館学芸員課程/考古学
	生命倫理と法	法学科教授	粟屋 剛	医療と法
	・消費生活と契約 ・法教育、主権者教育、市民教育	法学科講師	倉持 弘	民法 法学教育
	・裁判員制度の現状と課題 ・少年非行への対応とその課題 ・現在の犯罪・非行の情勢について	法学科准教授	白井 諭	刑事訴訟法 刑事政策
	国際裁判による紛争の平和的解決	法学科准教授	砂川 和泉	国際法
	相続法改正について	法学科教授	吉岡 伸一	民法
	経済	中国経済の構造転換	経済学科教授	田中 勝次
経営学・商学	地域社会の近代化と産業発展	商学科教授	天野 雅敏	日本経済史/商業史
	中国企業の現状と課題	経営学科准教授	于 琳	国際経営論/経営管理論
	・大学との連携について、高大連携について ・サービス系主として事務作業の生産性向上 ・製造業における生産性について	経営学科教授	大崎 紘一	経営工学
	・どうなる、日本企業 ・これから求められる経営者・リーダー ・企業とマスコミ -評判はいかに形成されるか-	経営学科教授	長田 貴仁	経営者論、経営戦略、経営組織、 リーダーシップ論、 現代ビジネス事業、人的資源管理、 ビジネス・ジャーナリズム
	・金融リテラシー概説 ・相続と住宅管理 ・空き家対策	商学科准教授	海宝 賢一郎	ファイナンシャルプランニング 不動産管理論
	・電子商取引の現在 ・電子マネーの現在	商学科教授	蒲 和重	流通システム論 FP 概論
	日本のスタートアップ企業	経営学科講師	川合 一央	経営史
	・教育工学とICTの利用 ・科学・ものづくり教育	経営学科教授	小松原 実	情報技術論 マルチメディア表現・技術
	・企業と情報 ・インターネットと地域社会	経営学科教授	大東 正虎	経営情報 情報管理
	・充実したライフデザインと キャリアプランシナリオの描き方 ・ファイナンシャルプランニングの基礎知識 財産戦略	商学科教授	高林 宏一	ファイナンシャルプランニング
	おかやま地域の産業・商業振興	商学科教授	田中 潔	マーケティング/社会調査
	金融資産運用の基礎知識	商学科教授	鳴滝 善計	証券市場論 ポートフォリオ・マネジメント
	戦略経営と管理会計： 財務・非財務指標による管理	経営学科教授	浜田 和樹	管理会計
	・食品衛生リスク学創設の必要性 -フグ取扱法制の制度疲労と CODEX ・なぜ商店街はシャッター通り化するのか -地域交通行政政策の要再検討	経営学科教授	古川 澄明	経営学
	・サービスの提供は人としての成長 ・マーケティングの魅力と危険性	商学科教授	松井 温文	流通マーケティング サービス・マーケティング
	・マーケティング戦略 ・観光・まちづくりのマーケティング	商学科教授	三好 宏	マーケティング入門 地域マーケティング
	情報化社会における脅威と身の守り方	経営学科准教授	箕輪 弘嗣	メディア情報学/情報ネットワーク論
	なぜ間違えるのか? 観光サインの多言語表記を考える	商学科教授 // 准教授 // 講師	松浦 美佐子 黎 暁妮 徐 允廷	英語学・英文学 日本語教育学 観光学

著書紹介

## 『OECD モデル租税条約 2017 年版』

水野忠恒監訳  
公益社団法人日本租税研究協会 (2019 年)

法学部法学科 准教授 坂巻 綾望



本書は、OECD モデル租税条約 2017 年版を複数の研究者や実務家で分担して翻訳したものである。租税制度の設計は各国の自由であり、課税は原則としてその国の国内法に基づいて行われる。しかし、そのままでは、国際的な経済活動に対して複数の国により課税されることがある。典型的には、納税者が住んでいる国と所得の源泉がある国の両方が課税を行う場合である。こうした国際的二重課税は、貿易や資本の移動を阻害しうることから、各国は、一定の条件のもとでお互いに課税を控えることを約束している。この約束が「租税条約」である。

租税は国家の重要な収入源であるため、租税条約の締結にあたっては国家間の利害が激しく対立する。そのため、租税条約は、相手国を選び、両国の政治的・経済的状況を考慮して、二国間で締結することが一般的である。現在は世界中でこのような二国間租税条約がはりめぐらされている。OECD は、その形式や内容に統一的な基準を与えるため、租税条約のひな形を提供している。それが OECD モデル租税条約である。モデル租税条約自体はわずか 30 条であるが、コメントリーに詳細な事例や各国の立場が記載されており、各国の解釈適用を理解するうえで重要なものとなっている。

OECD モデル租税条約は、1977 年に正式に公表されて以来、改訂が重ねられてきた。2017 年版は、BEPS プロジェクトにより取り組まれた内容が反映されており、旧版から 200 ページも増加していた。その原文は、各国の思惑と妥協が入り混じって長文難解となっている部分が少なくなかったため、完成に至るには根気が必要であった。実務家や研究者の方々にご参照いただければ幸いである。

著書紹介

## 『証券投資の基礎知識』

坂下晃 [監修]、鳴滝善計、外島健嗣、田村香月子 [著]  
株式会社晃洋書房 (2019 年)

経営学部商学科 教授 鳴滝 善計



「貯蓄から投資へ」という言葉を耳にする機会が増えてきている。これは、大切なお金を積極的に資産運用によって増やしていく努力が必要になってきたということである。その背景には、まず少子高齢化の進展による年金危機がある。将来の老後生活は、公的年金には頼れない、自助努力により資産形成することが必要になってきている。次に、超低金利時代ということで、預貯金だけではなかなか増えていかないということがある。

昨年話題になった金融庁の報告書（金融審議会 市場ワーキング・グループ報告書「高齢社会における資産形成・管理」（令和元年 6 月 3 日））では、こうした資産運用、資産形成の重要性という観点から、その背景、対応の方向性等が取りまとめられたものであるが、老後生活のためには公的年金だけでは 2,000 万円足りないということが強調されて流布した。この報告書では、高齢夫婦無職世帯（夫 65 歳以上、妻 60 歳以上の夫婦）の平均的な収入・支出を見ると、毎月約 5 万円の赤字となり、30 年間で約 2,000 万円の金融資産からの取崩しが必要になることが示されている。

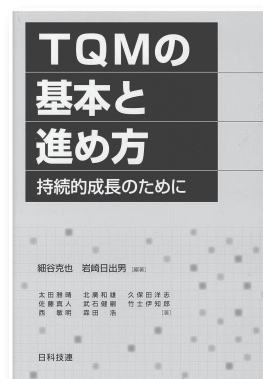
こうした老後に向けた準備は、定年や年金の受給が間近に迫っている人の問題というよりも若い人の問題である。資産形成は、若い時からスタートするかどうかで大きな差を生じさせる。若い時から計画的な資産形成、賢い投資の方法について学び、実践することが重要である。本書は、こうした観点から、大学生に学んで欲しい証券投資に関する基礎的な知識や理論を解説したものである。

## 著書紹介

## 『TQMの基本と進め方 持続的成長のために』

細谷克也 岩崎日出男 [編著]  
 太田雅晴 北廣和雄 久保田洋志 佐藤真人  
 武石健嗣 竹士伊知郎 西 敏明 森田 浩 [著]  
 株式会社日科技連出版社 (2019年)

経営学部経営学科 教授 西 敏明



日本製品は、非常に高品質であるとして“Made in Japan”は、世界から高い評価を受けてきた。それは、時代の要請に合わせて、TQM (Total Quality Management : 総合的品質管理) を進化させてきた結果である。

近年、製造業にかかわらず、多くの分野で話題となっているIoTやAI、ビッグデータなどの進展により、企業を取り巻く環境は、劇的に変わろうとしている。これからも日本製品が、社会や顧客のニーズを満たすためには、顧客価値を創造し、顧客の信頼を高めて行かなければならない。

昨今、企業の不祥事や品質問題が相次ぐという由々しき事態が散見されている。品質問題は、製造現場の問題にとどまらず、経営課題そのものであり、経営者の強いリーダーシップの下で、TQM活動を徹底して推進していくことが重要である。

今こそ、品質立国・日本の土台を支えた、世界に誇る経営管理技術TQMを今まで以上に地道に、丹念に実践していく必要がある。TQMは、現場からトップまで、会社にかかわるすべての人が参画する点に大きな特徴がある。顧客価値創造への取組みも同じである。全社一丸となって挑むことで大きな成果が得られる。

本書のコンセプトは、TQMをこれから取り入れる企業、長年取り組んでいる企業、なかなかうまく進められず悩んでいる企業などに対し、今一度TQMの基本と本質に立ち返り、TQMをどのように進めればよいのか、さらにその効果について学んでいただくことである。社員一人ひとりが本書を必携し、TQMの基本を学んでいただける内容とした。TQMのうまい進め方を修得してもらうよう、管理職ならびに係長クラスを対象に記述したが、経営トップも読者対象として強く意識した。

なお、この本文は、本書の「はじめに」より引用・改変している。

## 著書紹介

本学と二松學舎大学との共同研究 出版物  
『ショッピングモールと地域』

編 井尻昭夫、江藤茂博、大崎紘一、松本健太郎  
 株式会社ナカニシヤ出版 (2016年)

## 『フードビジネスと地域』

編 井尻昭夫、江藤茂博、大崎紘一、松本健太郎  
 株式会社ナカニシヤ出版 (2018年)

## 『大学と地域』

編 井尻昭夫、江藤茂博、大崎紘一、松本健太郎  
 株式会社ナカニシヤ出版 (2020年)



(一社) 岡山経済同友会ボランティアプロフェッサー講義

## (一社) 岡山経済同友会とタイアップした「経営人材育成プログラム」

本講義は、(一社) 岡山経済同友会のご協力のもとに、日本の将来を担う本学学生に、「企業経営」をテーマにして、各社の未来への想い、想いを実現させる企業活動について、講義をしていただく、ボランティアプロフェッサー・オープンカンパニーとして平成8年度から実施されており、令和元年度で24年目を迎えました。平成27年度からは、これまで「経営学特殊講義」としていた科目名を、「岡山経営者論」と改め、経営者の想いを伝える講義としています。

平成26年4月から開始したアクティブラーニング形式の講義では、1回目は各社の内容(例えば社・社訓、経営理念、経営活動等)についてご講義を頂いています。

2回目は、講義の最初又はあらかじめ与えたテーマ

(各社に関する事、社会状況に関する事など)について、10~15人のグループで議論、まとめ、発表、講師の講評をいただく形式で講義を実施していただいています(テーマについての内容の説明とグループでの議論)。

社会科学系の社会人として必要な学力の3要素{(知識・技能)、(思考力・判断力・表現力)、(主体性を持って協働して学ぶ態度)}を修得させるために、新しい形式でのご講義を講師にはお願いしています。

最近、企業では、若者の商品に対する嗜好傾向の意見を集めるために、学生の参画による商品開発、マーケティングを実施されるケースが見られるようになりました。第2回目の講義は各社の課題解決の一部としてご利用いただいています。

### 岡山経営者論 登壇者一覧

**2019年度 前期** 物流・流通・観光業における経営  
(通常形式とアクティブラーニング形式)

#### 「物流事業の経営課題と両備のASEAN展開」

両備ホールディングス(株)執行役員・  
両備トランスポートカンパニー長 田邊 学 様

#### 「大原美術館における経営」

(公財)大原美術館 理事長 大原あかね 様

#### 「(株)天満屋における経営」

(株)天満屋コーポレート部門 人事チーム  
(兼)広報チーム 部長 榎野 博通 様  
(兼)広報チーム 課長 木下衣里子 様

#### 「物流からLogisticsへ」

岡山土地倉庫(株)取締役営業部長 上田 信行 様

#### 「(株)JTBにおける経営について」

(株)JTB岡山支店 営業担当部長 田村 秀昭 様

#### 「全日本空輸(株)における経営について」

全日本空輸(株)岡山支店長 常木 尚隆 様

**2019年度 後期** 物流・流通・観光業における経営  
(通常形式とアクティブラーニング形式)

#### 「(株)両備システムズについて」

(株)両備システムズ 専務取締役 采女 一憲 様

#### 「広告について」

(株)K2コミュニケーションズ 代表取締役社長 矢野 雅浩 様

#### 「西日本電信電話(株)について」

西日本電信電話(株)岡山支店長 西谷 紀彦 様

#### 「RSK山陽放送(株)について」

RSK山陽放送(株)代表取締役社長 桑田 茂 様

#### 「テーマは『伝える』」

(株)山陽新聞社取締役・倉敷本社代表 日下 知章 様

#### 「広告代理店とクリエイティブの仕事」

(株)電通西日本岡山支社  
クリエイティブディレクター、コピーライター 川口 修 様

## 観光振興論特殊講義

経営学部商学科 教授  
三好 宏

観光振興論特殊講義は2010年度に開講以降、毎年観光業や地域振興関係団体の現場で活躍中の方々にお話しいただいているオムニバス形式の授業である。学生は、講師のお話から提起される実務の課題を検討し、解決策について学び、観光や地域振興に対する理解を深めていく。講義では課題が毎回出され、これも通じて同分野で活躍できる人材となることを目標としている。

今年度は講義スタイルを大きく変えた。従来はゲストを10人程度呼びし講義いただいていたが、ゲストの数を6名に減らしそのお話の次週（場合によってはそれ以降の週）に、当該内容にかかわるテーマで学生のグループディスカッションを導入した。これは、経営学科開講の岡山経営者論に倣ったものである。変更の理由は、ゲストのお話をお伺いすること自体何ら問題はないのだが、ともすればお話を聞いて感想・意見レポートを出して終わるというパターンに陥り始めたからである。いわゆるアクティブラーニングを導入して、より積極的に講義に関わらせることを試みた。

また講義を一貫するテーマ、「魅力あるゲストハウスを運営するのに必要な知識や技能を身につける」を設定して、下記の講師を選定させていただいた。本学の学生たちが、真庭市の北房まちづくり株式会社と協働して、完成したばかりのゲストハウスの運営をお手伝いするという事業がスタートしたからである。

残念ながら2週目の学生のディスカッションまでご覧いただけただけのゲストは、ゲストハウス経営のとりいくぐる代表明石氏のみであったが、今回の試みは手ごたえもあり、次年度も継続して実施する予定である。



### 2019年度「観光振興論特殊講義」外部講師登壇プログラム（登壇順）

テーマ	講師
真庭市北房 AZAE プロジェクトについて	北房まちづくり株式会社 代表取締役 加戸 義和 氏
未来の観光を創る － Learning Journey JAPAN －	株式会社 リレイション プランナー 前田 優 氏
真庭市北房の観光戦略	北房観光協会 事務局長 坂本 信広 氏
ゲストハウスとりいくぐるの運営	合同会社 さんさん とりいくぐる代表 明石 健治 氏
とりいくぐるに関するグループディスカッション	合同会社 さんさん とりいくぐる代表 明石 健治 氏
蒜山観光とおもてなしの心	株式会社グリーンピア蒜山 長恒 智洋 氏
訪れたいくなる写真 ～魅力的な観光パンフの写真に向けて	写真ナガセ カメラマン 米岡 伸剛 氏

## 2019 年度孔子学院活動報告

岡山商科大学孔子学院は、2007年に創立して以来、中国語教育及び中国文化の正しい理解とその普及に努力を積み重ねてまいりました。

2019年度に下記の通り、事業を展開しました。

### 1. 中国語教育

中国語教育は孔子学院の三大柱の一つです。今年度の中国語教育は入門、初級、中級、上級と上級会話、個人レッスン、子供向けコースなどに分けており、それぞれ昼と夜のコースを設けております。倉敷の教室と遠隔教育コースを入れて、年間40クラスあります。それぞれ年間合計36週間の授業があります(遠隔教育は年に10回)。中国国内の対外中国語教材を使っています。同時に、孔子学院講師が8つのクラスの大学単位の中国語授業を担当しており、日本の教材を使っています。それぞれ年間合計30週間の授業があります。一般市民向けの中国語ラジオ講座は2局で行い、合計毎年76回行っています。

### 2. 文化イベント

孔子学院の2番目の柱は学術文化イベントです。創立当初から、市民向けの文化イベントを続けてきました。徐々に地域の市民に中国文化を紹介し、孔子学院の影響を広げてきました。この一年間、市民向けの多彩な文化イベント(中国語朗読コンテスト、文化講座を含め)26回、1,396人に参加していただきました。

日本の文化に応じて、地域の一般市民向けの文化イベントも行いました。コミュニティに出かけ、孔子学院に来てもらうことにより、多角的な中国文化体験イベントを開催しました。中国の伝統風習の文化イベントを通じて、理解を深めることができ、中国のことをより知り、親しみを持たれるようになりました。中でも、餃子作り、粽作り、中国茶を楽しむ会、切り紙、太極拳体験、中国結び作りなどは参加者にとって、中国らしさを一層感じられるイベントとなりました。孔子学院は地域の市民にとって、中国と触れ合う窓口となっています。

専門家を招き、中国語教育研究会、中国経済講座、中医学講座を行いました。さらに、孔子学院の日のイベントに合わせ、文化講座シリーズが行われ、多角的に中国を紹介しました。

岡山商科大学大学祭では、中国文化体験コーナーを設置し、地域の市民と大学生に身近に中国の工芸品に触れるチャンスとなりました。

中国側協定大学である大連外国語大学と密接な連携を取り、日本人大学生の中国サマーキャンプと大学生中国伝統民族楽器鑑賞会を開催しました。日本人の青少年に中国を知ってもらう機会が増えました。

### 3. 中国語ラジオ講座と遠隔講座

特色あるプロジェクトとして、地域のラジオ放送局RSKで岡山商科大学中国語講座を開講し、既に11年間続き、ワンフレーズ、ワンワードの中国語講座、中国の社会経済講座、飲食文化講座などが中国語ファンに人気です。RadioMOMOでの中国文化ラジオ講座は4年間続き、ネットでの放送もあり、孔子学院により多くの宣伝のプラットフォームを提供し、より多くの視聴者が中国文化に触れ、現代中国を知る機会となりました。さらに、テレビ会議システムを使い、岡山県立津山商業高校へ遠隔文化講座を行っております。

### 4. 孔子学院の日

毎年恒例となった「孔子学院の日」。今年も内容豊富なイベントを開催しました。岡山の中国語及び中国文化に関心を持っている市民がイベントに参加しました。

各レベルの中国語授業のミニ講座、中国文化講座および中国茶文化体験、太極拳、切り紙、中国結び、中国事情ビデオなど多彩な体験コーナーを設けて、来場者に素晴らしい中国文化の体験をしていただきました。イベントの終了後には、その新聞記事と写真を孔子学院のホームページに掲載しました。

### 5. 地域への貢献

地域への貢献は孔子学院の重要な仕事の一つです。中国語を広めると同時に、地域の市民の需要を調べ、多角的に地域へのサービスを提供し、中国文化を広めるイベントをしてきました。今年も積極的に地域のコミュニティの要請に応じたり、商大大学祭、商大附属高校文化祭に参加したりして、市民に中国文化体験イベントを開催して、地域の市民と学生に身近に中国文化に触れ、中国を知る機会を提供し、好評をいただきました。長年、このような地域でのイベントを続けることは、岡山商科大学孔子学院の一大特色でもあります。これは、地域の市民と親しみ、地域に貢献する機会でもあり、中国文化を紹介する機会でもあります。今後も引き続き地域を拠点に、市民に近づき、地域の文化に合わせて、発展の道を探ってまいります。

倉敷市の中国語教室は既に3年間続いており、孔子学院から2名のボランティア講師を派遣し、順番で地域へ授業を担当しています。使用している教材及び授業の様子は孔子学院と同様で、受講生が絶えることはありません。

### 6. 中国側との合作によるイベントの開催

中国側協定大学である大連外国語大学及び協力機関との提携で、大連外国語大学伝統芸術鑑賞会、商大



生の中国でのサマーキャンプなどのイベントを行いました。今年、伝統芸術鑑賞会は和気閑谷高校と孔子学院でそれぞれ披露して、およそ500人に参加していただきました。今年、9名ほどの商大生がサマーキャンプに参加し、事前授業と事後授業を受けることで、単位を取得できました。そして、孔子学院の全ての学習科目を大学の単位として認める事業も継続中です。

## 7. 大学及び他の孔子学院との協力

岡山商科大学孔子学院は「協力化」の面において、他の孔子学院と協力し、交流分野を広げました。今年、新しいプロジェクトとして、北陸大学孔子学院と合作し、中国の青年卓球選手と岡山商科大学卓球部の学生と友好試合を行い、両国の青年の相互理解を深めました。そして、神戸東洋医療学院孔子課堂と協力して、課堂長に岡山商科大学孔子学院のために中医学講座を行っていただきました。

岡山県立岡山東商業高校には「中国理解」の授業があり、孔子学院は担当の先生と相談して、高校生の授

業にも参加しました。留学生交流会などの形式で、日本人高校生がもっと深く中国を理解できるよう協力しました。

それに、今年初めて高校生を推薦して、「西日本中高生漢語橋予選大会」に参加しました。孔子学院のボランティア講師は西日本の優秀者を連れて、中国で行われる「世界中学生漢語橋大会」に参加しました。



中国経済講座



春節交流会



津山商業高校文化交流会



端午節交流会



中国語スピーチコンテスト



岡山東商業高校との交流会



サマーキャンプ



孔子学院の日



卓球友好交流試合



伝統芸術鑑賞会

## 2019年度の商大塾を振り返り

社会総合研究所 次長  
経営学部商学科 准教授  
海宝 賢一郎

資格取得支援を行っている「商大塾」を通じて、各種資格の合格に向けた学内試験対策講座や学外講座（商大塾の推奨講座）を受講することによって、宅地建物取引士をはじめとした国家資格の合格者も少数ながらも安定的に輩出されるようになってきました。

### ◆ビジネス実務に関連した資格合格者が増加

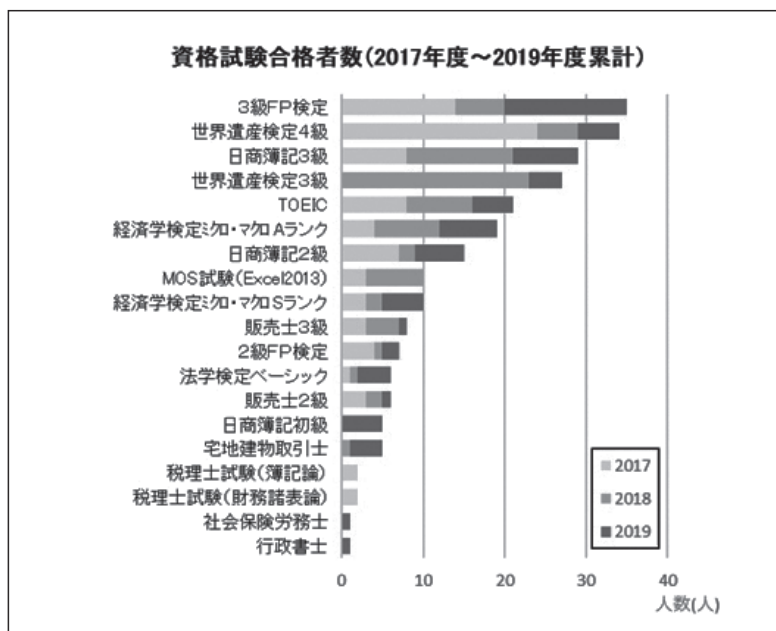
2019年度の資格試験の合格者数は78名と、前年度（94名）より若干減少したものの、3級FP技能士や日商簿記3級などのビジネス実務に直結する資格の合格者が増えたのが特徴的でした。また、宅地建物取引士などの国家資格についても、商大塾との提携資格講座（日建学院）の受講者からの合格が目立ちました。

日商簿記については、簿記の初学者については初級からスタートさせるプランを提案しており、次年度に3級、2級とステップアップしていく学生が増えることを期待しています。

### ◆ダブルスクールで国家資格合格を目指す

国家資格については、提携先の学外講座（資格の専門学校での通学講座）を受講するダブルスクールによる学習が定着してきており、税理士講座などの会計系の資格講座をはじめ、宅地建物取引士など不動産実務に直結する資格については、学外講座を積極的に受講して合格に結びつけています。

商大塾では、提携先の受験指導校の受講料割引制度や資格試験合格者に対する報奨金制度などにより学習支援を行っており、学生も上手に活用してくれています。



### ちょっと振り返り ～過去からの合格実績～

2級FP技能士	58名	(2008年度～2019年度の累計)
3級FP技能士	213名	( // )
AFP認定者	42名	(2010年度～2019年度の累計)
日商簿記2級	37名	(2011年度～2019年度の累計)
日商簿記3級	72名	( // )
販売士2級	17名	(2012年度～2019年度の累計)
販売士3級	25名	( // )

※ AFP認定者は日本FP協会への登録完了者数



本学は、実践的能力の取得や社会人としての教養を身につけ、早期から社会人となるための意識を高めるよう学生を指導しています。

そうした中で、国家資格や検定試験へのチャレンジを学生に促し、積極的に受験できるよう「岡山商科大学専門学校」ならびに「学校法人産業能率大学」と連携して、資格試験講座・通信教育講座等を実施しています。

また、国家資格試験等に合格した場合、報奨金を支給する「岡山商科大学資格取得支援制度」を設けています。本年度も多数の皆さんが、国家資格試験・公務員試験・検定試験に合格されました。

## 公務員試験合格者 (2019 年度)

●国家公務員	刑務官	1名
	自衛官 (一般曹候補生)	3名
●地方公務員	備前市役所	1名
	警察官	9名
	(岡山県 5 東京都 1 広島県 1 島根県 1 兵庫県 1)	
	津山圏域消防組合	1名

## 資格試験合格者 (2019 年度)

社会保険労務士	1名	
行政書士	1名	
宅地建物取引士	4名	
AFP認定者	2名	
FP技能検定	2級	1名
	3級	15名
日商簿記検定	2級	6名
	3級	8名
	初級	5名
リテールマーケティング (販売士) 検定	2級	1名
	3級	1名

## 資格試験講座一覧

日商簿記検定 (初級) 講座
日商簿記検定 (3 級) 講座
日商簿記検定 (2 級) 講座
宅地建物取引士本科講座 (通学)
宅建建物取引士 web 講座 (e-ラーニング)
MOS 対策講座 (Word,Excel,Power point,Access)
日本語能力試験対策講座 (e-ラーニング)

経済学検定 (ミクロ・マクロ) 2科目	Sランク	5名
	Aランク	7名
法学検定ベーシック		4名
秘書技能検定2級		1名
TOEIC (500点以上)		5名
ITパスポート		1名
世界遺産検定	3級	4名
	4級	5名

(注) 岡山商科大学資格取得支援制度の詳細については社会総合研究所までお問い合わせください。

## 各教員による勉強会

リテールマーケティング (販売士) 検定勉強会
FP 技能検定勉強会

2019年10月20日に行われた令和元年度宅地建物取引士資格試験において、法学部法学科4年の高谷 祐介さん、経営学部経営学科3年の山下 雄矢さん、経営学部商学科4年の荒井 美由紀さん、3年の長谷川 裕哉さんの4名が合格しました。山下さん、長谷川さんの2名は、商大塾から資格取得支援講座を委託している株式会社建築資料研究社（日建学院）の宅建講座を受講し、優秀な成績をおさめることができました。また、荒井さんは社会保険労務士にも合格しました。

## 合格者の声

### 社会保険労務士 合格

経営学部商学科4年  
荒井 美由紀

FP技能士二級試験に合格した頃、ゼミの先生から社会保険労務士という選択肢もあることを教えていただき、社会保険労務士試験合格へ向けて約2年間の受験勉強が始まりました。

%も分数も意味がわからなかった私が、合格率5%前後の国家試験に合格できたのは、条文の成り立ちを理解して勉強したこと、いろんな人に受験すると公言していたことが功を奏したと考えています。

他の資格試験でも言えますが、学生の合格率は今年の社会保険労務士試験においても0.5%と本当に少なかったです。実務経験、人生経験がないゆえ、理解しにくい内容が多く戸惑いました。そのような時でも、この条文はこのように人たちのために作られた等意味合いを覚えていくことにより、問題の正答率がかなりあがっていきました。こういった難関試験というものは、過去問を何回やっても合格できる試験ではありませんし、理解して解くことが合格につながりました。

もう一つ、私は色んな人に社会保険労務士試験に合格すると公言していました。私のゼミの仲間も家族も恋人も内定先企業の方も、試験勉強していることを全員が知

ていました。当初は誰一人として、私が合格すると思っていた人はいなかったと思います。「やれるならやってみる」そういう視線が痛かったですし、とても辛かったです。だからこそ、引き返す選択肢はもうありませんでした。公言して落ちればそれまでです。でも、合格すればそのとき自分がやり切った満足感を得ることができ、一生の自信になりました。

私は、1年目は通学で資格試験の学校に行き、自習室に1日入り浸るような日々でした。2年目は通信教材のみで勉強しました。ほとんどを自宅で勉強する日々を過ごしましたが、2年目の方が有意義な時間を過ごせたと思っています。環境を言い訳にせず、必ず合格するという強い意志、応援してくれる人の気持ちを考えることができれば自然と勉強する気になれます。

最後に、岡山商科大学の学生でも、社会保険労務士試験に合格することはできます。私は、来年から社会人になりますが自分の夢を叶えるためにも、来年も取らなければならぬ資格試験に挑んでいこうと思っています。



祝

### 宅地建物取引士 合格

経営学部経営学科3年  
山下 雄矢

私が宅地建物取引士の資格を取得できた理由は2つあると思います。

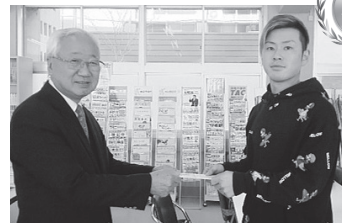
1つ目は、目標設定をしっかりと決め、自分が勉強から目を背けない環境を作ったことです。私は将来不動産業で独立したいと思っており、その為にはこの資格が必ず必要なので絶対に一発で取得すると決めました。そして、自分にプレッシャーを与え、同時に逃げられない環境を作るために、家族や親戚、友人などに「私は一発でこの資格を絶対に取得する」と言い続けました。口だけで終わらせたくないだったので勉強する意欲を湧かすことができたと思います。

2つ目は、切磋琢磨しあえる友人がいたことです。同じ部活動の友人もこの資格を取得したいと考えており、一緒に資格の学校である日建学院に申し込みました。この日建学院では毎回の授業ごとや定期的なまとめのテストを行い順位が発表されるものでした。最初は私のほうが友

人より順位はずっと上だったのですが、ある定期テストで大幅に順位を抜かれました。私はもの凄く負けず嫌いなので、その時に私の中で火が付いたと思います。そこからは、友人がしている勉強量の倍はすると決めて勉強しました。友人も負けず嫌いの性格だったので私に勝つために、私は追いつかれないように勉強し、気付けば学校内で1番を取れる力が身につけていました。友人がいたからこそできたことだと思います。

この資格を取得できたのは私が勉強した証でもありますが、私一人だけの力ではないと思っています。応援してくれた家族や大学の先生、友人に感謝したいと思います。

卒業までの残り1年、将来自分に力を貸してくれる資格はどんどん勉強し、自分の将来の目標に向かって頑張ります。



祝

### ERE（経済学検定）ミクロ・マクロSランク合格

祝

経済学検定試験において、経済学部経済学科4年の銭 テイテイさん、郭 紹洋さん（2019年7月7日実施）、経済学部経済学科4年の孟 帥同さん、伊 洋さん、3年の陳 建強さん（2019年12月1日実施）の5名がランクSの成績を収めました。ランクSはわずか成績上位1%にしか与えられない、非常に優秀な成績です。

## 後援会及び後援会役員会について

社会総合研究所では、後援会を組織しています。県内外を問わず多くの個人・団体の方にご登録をいただき、会員の皆様には、各種公開事業にご参加いただくと共に、刊行資料の配布をしています。そうした活動を通じて、寄せられたご意見、ご感想は社会的な要請とも受け止め、展開する事業へ反映させています。

そうした私共を支えていただいている後援会会員の中から一部の方に、中長期的かつ戦略的なご意見をいただくために、役員としてご就任いただいています。2020年2月4日にはご意見をいただく場として「2019年度後援会理事・幹事合同役員会」を開催いたしました。

産業界などで活躍されている方々からのご意見は多くのご示唆を含んでおり、これからの活動指針を定めていく上で、大変貴重な道標を示していただきました。

今後、こうしたご意見を無駄にすることなく、地域発展のため鋭意取り組んでいきたいと思っております。

### 岡山商科大学社会総合研究所後援会役員名簿 (2020年2月) (敬称略)

代表理事	岡崎	彬	岡山ガス株式会社	代表取締役会長
理事	宮長	雅人	株式会社中国銀行	取締役会長
理事	桑田	茂	RSK山陽放送株式会社	代表取締役社長
理事	小嶋	光信	両備ホールディングス株式会社	代表取締役会長兼 CEO
理事	秋山	進彦	倉敷化工株式会社	相談役
理事	江國	成基	株式会社天満屋	代表取締役社長
幹事	服部	弘平	服部興業株式会社	代表取締役会長
幹事	木谷	忠義	株式会社さえら	代表取締役会長
幹事	近藤	弦之介	太陽綜合法律事務所	代表弁護士
幹事	永山	久人	下津井電鉄株式会社	代表取締役社長



2020年2月4日 於：岡山プラザホテル

## 所長挨拶

### 2019 年度活動経緯

社会総合研究所 所長 大崎 紘一



令和元年度には、商大塾に職員を配置していただきましたので、学生の資格取得の範囲を広げるべく努力をしています。特に留学生の日本語能力を評価する「日本語能力試験」を商大塾で一括管理させていただくようにしました。98名の受験申込者のうち87名が受験し22名がN1、N2、N3に合格しました。本年度は手始めでありますので、今後は学内の関係する先生方と協力して、本学に留学している400名程度の学生全員に受験をさせるようにしていきたいと考えています。来年度からは、TOEICについても商大塾で統一して手続き業務を進めていきます。本年度は、資格取得について学生諸君が頑張ってくれ、行政書士1名、社会保険労務士1名、宅建4名が合格しました。おめでとうございます。また日商簿記2級、3級の内容が変更され、これまで合格者が少なかったですが、2019年12月までの結果では日商簿記2級5名、日商簿記3級6名と復調傾向にあります。商大塾に多くの学生が相談に訪れ、将来の進路を決めてもらえる場所にしたいと取り組んでいます。

研究支援につきましては、先生方の科学研究費申請件数が代表・分担を合わせて50件にとどこうとしています。また、ブランディング事業についても3年目となり、8件の研究成果について、二松學舎大学と共同研究で「地域と大学」の著書を令和2年3月に出版の運びとなりました。

2019年12月に本研究所後援会役員会代表幹事武田修一様（株廣榮堂取締役会長）がお亡くなりになり、役員会では、いつもの武田様の含蓄あるお話をお聞きすることができずさみしさを感じております。故人のご冥福をお祈りします。

## 岡山商科大学社会総合研究所後援会について

### 趣 旨

社会総合研究所は、地域社会の発展に寄与することを目的に設立された岡山商科大学の附属機関です。

### 事 業

社会総合研究所は「研究」、「資料収集」、「学生学習支援」の他に、対外的な4つの事業を遂行しています。

- 公開講演会・「慶應 MCC 夕学講座」サテライト講座・商大講座・通信教育講座
- 岡山県生涯学習大学（県委託事業）等 大学公開事業の開催
- 岡山商科大学学園誌『商大レビュー』の発行
- 地域社会の当研究所に対するニーズの把握

### 後援会組織

社会総合研究所設立趣旨の徹底を図るために後援会が設けられています。現在の後援会役員は次の通りです。

- 理事 岡崎彬（代表）、宮長雅人、桑田茂、小嶋光信、秋山進彦、江國成基
- 幹事 服部弘平、木谷忠義、近藤弦之介、永山久人（敬称略）

### 会 費

無料です。

### 会員の特典

会員は、下記の特典が受けられます。

1. 『商大レビュー』等の希望者無料配布
2. 「岡山商科大学公開講演会」、「商大講座」や「慶應 MCC 夕学講座」等、大学公開活動の開催についてのご案内
3. 社会総合研究所および本学図書館の資料（雑誌、統計書類）のご利用

### お問い合わせ

岡山商科大学社会総合研究所

〒700-8601 岡山市北区津島京町 2-10-1 電話& FAX086-256-6656

## 附属経営研究所・社会総合研究所 1972（昭和47）年創設以降の活動経緯

### 1. 主な活動

<b>附属経営研究所</b>	1972（昭和47）年～1998（平成10）年（井尻裕 前学長）	
研究所報	1976（昭和51）年～2006（平成18）年 以降 休刊	
後援会役員会	1989（平成元）年～現在に至る	
商大レポート	1990（平成2）年～1992（平成4）年	
商大レビュー	1993（平成5）年 創刊 現在に至る	
岡山の起業家精神	1993（平成5）年 発刊 山陽新聞社	
<b>社会総合研究所</b>	1999（平成11）年～現在に至る（井尻昭夫 学長）	
オフキャンパスセミナー （現商大講座）	1999（平成11）年～現在に至る	
夕学講座	2003（平成15）年後期～現在に至る	
商大塾	2012（平成24）年～現在に至る	
客員教授	2017（平成29）年～現在に至る 2017（平成29）年4月 近藤一仁氏、2018（平成30）年5月 青山敦子氏	
文部科学省 私立大学研究ブランディング事業	2017（平成29）年度～2019（令和元）年度 『寄り添い型研究』による地域価値の向上 16研究テーマ	
本学と二松學舎大学との共同研究 出版		
2016（平成28）年 ショッピングモールと地域	発刊	ナカニシヤ出版
2018（平成30）年 フードビジネスと地域	発刊	ナカニシヤ出版
2020（令和2）年 地域と大学	発刊	ナカニシヤ出版

### 2. 学長

井尻 裕	1965（昭和40）年～1995（平成7）年3月
井尻 昭夫	1995（平成7）年4月～現在に至る

### 3. 歴代所長・次長

年次	所長	次長
1972（昭和47）年から	久川 武三	鳥越 良光
1977（昭和52）年から	西岡 正雄	岡本 輝代志
1982（昭和57）年から	佐伯 信之	堤 一浩 → 橘 晋介 → 知念 裕
1988（昭和63）年から	国沢 信	知念 裕
1989（平成元）年から	鳥越 良光	喜田 栄次郎 → 市村 巧
1992（平成4）年から	岡本 輝代志	田中 勝次 → 長谷川 博史 → 伊藤 治彦
1998（平成10）年から	吉尾 匡三	井上 省紀
2001（平成13）年から	中井 透	矢吹 雄平 → 西 敏明 → 島田 伸夫
2007（平成19）年から	大崎 紘一	川合 一央 → 成澤 寛 → 海宝 賢一郎

### 4. 後援会理事・幹事（氏名のみ記載をしています）

1989年 から	代表理事	伊原木 一衛						
	理事	秋山 政彦	稲葉 侃爾	河内山 重高	林原 健	藤田 正藏		
	代表幹事	佐藤 重雄						
	幹事	石田 祥史	岡崎 彬	木谷 忠義	黒瀬 知周	武田 修一	永山 久也	服部 弘平
1993年 から	代表理事	伊原木 一衛						
	理事	秋山 政彦	稲葉 侃爾	河内山 重高	林原 健	藤田 正藏		
	代表幹事	佐藤 重雄						
	幹事	石田 祥史	岡崎 彬	木谷 忠義	黒瀬 知周	近藤 弦之介	武田 修一	永山 久也

# 創設以降の活動経緯

2001年 から	代表理事	岡崎 彬					
	理事	伊原木 一衛	稲葉 侃爾	石井 稔	秋山 政彦	藤田 正藏	小嶋 光信
	代表幹事	永山 久也					
	幹事	石田 祥史	武田 修一	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久
2003年 から	代表理事	岡崎 彬					
	理事	伊原木 一衛	稲葉 侃爾	大倉 徹彦	秋山 政彦	藤田 正藏	小嶋 光信
	代表幹事	永山 久也					
	幹事	石田 祥史	武田 修一	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久
2004年 から	代表理事	岡崎 彬					
	理事	伊原木 一衛	稲葉 侃爾	大倉 徹彦	秋山 政彦	藤田 正藏	小嶋 光信
	代表幹事	武田 修一					
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人
2005年 から	代表理事	岡崎 彬					
	理事	伊原木 一衛	稲葉 侃爾	大倉 徹彦	藤田 正藏	小嶋 光信	秋山 進彦
	代表幹事	武田 修一					
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人
2008年 から	代表理事	岡崎 彬					
	理事	伊原木 一衛	稲葉 侃爾	藤原 隆昭	藤田 正藏	小嶋 光信	秋山 進彦
	代表幹事	武田 修一					
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人
2010年 から	代表理事	岡崎 彬					
	理事	伊原木 一衛	永島 旭	藤原 隆昭	藤田 正藏	小嶋 光信	秋山 進彦
	代表幹事	武田 修一					
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人
2012年 から	代表理事	岡崎 彬					
	理事	伊原木 一衛	永島 旭	原 憲一	藤田 正藏	小嶋 光信	秋山 進彦
	代表幹事	武田 修一					
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人
2013年 から	代表理事	岡崎 彬					
	理事	伊原木 一衛	永島 旭	原 憲一	小嶋 光信	秋山 進彦	
	代表幹事	武田 修一					
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人
2014年 から	代表理事	岡崎 彬					
	理事	伊原木 一衛	宮長 雅人	原 憲一	小嶋 光信	秋山 進彦	
	代表幹事	武田 修一					
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	松本 光雄	永山 久人	
2017年 から	代表理事	岡崎 彬					
	理事	伊原木 一朗	宮長 雅人	桑田 茂	小嶋 光信	秋山 進彦	
	代表幹事	武田 修一					
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	松本 光雄	永山 久人	
2018年 から	代表理事	岡崎 彬					
	理事	江國 成基	宮長 雅人	桑田 茂	小嶋 光信	秋山 進彦	
	代表幹事	武田 修一					
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	永山 久人		

## 5. 事務職員

年次	職員名
1976 (昭和51) 年から	赤木 富子
1982 (昭和57) 年から	田辺 敞子
1988 (昭和63) 年から	瓜生 清子
1989 (平成元) 年から	相澤 泰憲
1993 (平成 5) 年から	相澤 泰憲 仲原 修 伍賀 千恵
1994 (平成 6) 年から	長宗 繁 仲原 修 河合 俊隆 伍賀 千恵
1995 (平成 7) 年から	長宗 繁 河合 俊隆 大倉 京子
1997 (平成 9) 年から	長宗 繁 大倉 京子 中村 裕

年次	職員名
1998 (平成10) 年から	大倉 京子 中村 裕
1999 (平成11) 年から	相澤 泰憲 大倉 京子 中村 裕
2000 (平成12) 年から	相澤 泰憲 大倉 京子 三宅 英児
2001 (平成13) 年から	安田 角治 大倉 京子 三宅 英児
2004 (平成16) 年から	伍賀 千恵 中村 裕
2009 (平成21) 年から	中村 裕 橋本 真記
2014 (平成26) 年から	中村 裕 中川 尚子
2019 (令和元) 年から	中村 裕 中川 尚子 三浦 美由紀



## 編 集 後 記

本年度も商大レビュー第29号を無事に刊行することができました。ご協力いただいた方々に改めて感謝を申し上げます。

この文章を書いている最中、WHOから新型コロナウイルスのパンデミックが表明され、国際社会に甚大な被害・損害が発生している状況下で思ったことを綴ります。

バブル経済崩壊、リーマンショックなどの経済的な危機の度に、人々は知恵を絞って乗り切ってきた過去があります。今回の「コロナショック」では、時間短縮・テレワークなどが多くの職場で導入され、従来の働き方についても見直すきっかけになっていると感じます。以前、企業に勤めていた時の事、所属部署で一人の社員が退職することになったにもかかわらず人員補充はなく、業務が回らないと困惑していましたが、全員で少しずつ業務を分担し、一人あたり1.2倍に仕事量を増やして対処しました。最初はきつくても、すぐに慣れた記憶があります。やらざるを得ない状況になると「なんとかなる（なんとかする）」もので、たった一人の欠員がモチベーションアップにつながり、目標に掲げてもなかなか実現できなかった業務の効率化につながったという経験でした。

現在、業務縮小・時間短縮・人手不足といった厳しい環境の中で、「やらざるを得ない状況」が「マイナスをプラスに変える力」となり、「真の効率化（業務改善・業務改革）」が図れることを期待します。日本の一人あたりのGDPが世界で下位になっている状況を打破するためにも、「人口減少時代に向けて働き方を改革する」、いまがそのチャンスかもしれません。既成概念にとらわれず、新しい発想でビジネスに向き合う姿勢を持つことが大切です。

私達一人一人が考え、「新しい発想・新しい工夫」で産学官が一体となって連携し“地域力”を高めることができるよう、社会総合研究所も地域社会とのつながりを大切に活動していきます。引き続き、宜しくお願い致します。(K)

# 商大レビュー

Shodai Review

Vol.29  
2020.3

発行／岡山商科大学  
〒700-8601 岡山市北区津島京町2丁目10-1  
TEL.086-252-0642 (代)  
FAX.086-255-6947

ISSN 1340 2315

編集／岡山商科大学社会総合研究所  
TEL.086-256-6656

レイアウト・製作／友野印刷株式会社

岡山商科大学「商大 Blog」

<http://sangakukan2.osu.ac.jp/>

公開講座や夕学講座、フィールドスタディなど、「大学の今」を随時、掲載中！！



©掲載された記事へのご意見・ご感想等がございましたら E-mail:syaken@po.osu.ac.jp まで



Okayama Shoka University

